

〈資料紹介〉「俳声」総目次

——明治の俳諧結社「秋声会」の準機関誌について——

青 木 亮 人

本稿は明治の俳諧結社「秋声会」の準機関誌「俳声」の総目次である。俳句文学館所蔵の資料に基づいて作成し、同館で欠号となつて

○「明治十二傑投票（確定披露）」

○十二俳仙投票

ている第一巻第八号（明治三四・九）、第二巻第八号（明治三五・一二）は早稲田大学中央図書館所蔵の資料を使用させていただいた。貴重な資料の閲覧及び総目次の作成を快諾下さった両館に深謝申し上げます。

七二八三 老鼠堂永機君※ 六六四七 正岡 子規君

六五六九 春秋庵幹雄君※ 六三八二 尾崎 紅葉君※

五六一三 花の本聴秋君※ 五二八一 聴雨窓竹冷君※

四二二〇 巖谷 小波君※ 三八〇九 雪中庵雀志君※

二八八七 大野 洒竹君※ 二七三六 幸堂 得知君

二〇九九 内藤 鳴雪君 一九七一 桂花園桂花君^①

解題

近代俳句史は、正岡子規と弟子達で事足りる。そういう通説から明治の俳壇を捉えると、当時から子規等が人気を集めていたと思いたくなる。だが明治三二年「太陽」での俳人人気投票は、以下の通りである。

子規一派は子規と内藤鳴雪の二人。一方、※を付した俳人達は二人中八人——脈絡のない集まりではあるが。尾崎紅葉と巖谷小波は小説家で、老鼠堂永機、春秋庵幹雄、花の本聴秋、雪中庵雀志は俳諧宗匠。弁護士の聴雨窓竹冷に、俳句結社「筑波会」に入ります

（※は引用者注）

る古俳書蒐集家の大野洒竹——しかし彼らは二年後に創刊された俳誌「俳声」に幾度となく名を見せ、多くは秋声会という集いに足を運ぶ俳人達だった。

近代俳句研究において秋声会が取り上げられる事は少ない^②。当時の彼等の名声に比して扱われるのが稀なのは、俳諧宗匠から小説家に弁護士まで列席する秋声会が、いわゆる文学史からも、近代俳句史からもはみ出るからだろう。だがそれゆえに秋声会は、明治に俳諧を弄ぶ人士が広範であり、多様でもあった事を示す存在である。

秋声会の機関誌は「秋の声」(明治一九一三〇)「俳声」(明治三四一三五)「卯杖」(明治三六一四二)があるが、「俳声」は個人主宰の俳誌であり、正確には機関誌ではない。そのため「秋の声」や「卯杖」と比べ、「俳声」は二誌の橋渡的存在として扱われがちであり、管見では必ずしも注目されているとは言いがたい。本稿はかような「俳声」を総目次として整理する事で、秋声会と、ひいては明治俳諧研究に益する所があればと願うものである。

以下に秋声会の経緯をまとめ、「俳声」の概略を述べたい。

秋声会は、結成時から参加した巖谷小波の回想によれば、「明治二十八年の秋、友人紅葉からの手紙に、今度角田竹冷氏と謀つて、秋声会なる新俳社を興す事になり、わが紫吟社からは、君と眉山とを推薦しておいたから、其心算で居る様にと云ふ事であつた」^③。小

波と同じく初期から参加した岡野知十は「角田竹冷戸川残花主として之を発企す」と記している。「残花」は「文学界」(明二六一三一)等で詩人として名を馳せた戸川残花だが、「竹冷」は本名を角田真平、号は聴雨窓竹冷、弁護士を本業とし、市会議員、府会議員を歴任しつつ俳諧にも深く打ち込む趣味人だった。

君は東京の弁護人にして前議士なり(略)十三年代言人試験に応じ及第して免許を受く爾後専ら訴訟事務に従事す十四年日報社社長福地源一郎氏の東京組合代言人誹毀事件に關し訴訟を興す君乃ち原告代言人として名聲都鄙に鳴る翌年立憲改進黨の起るや之に賛し大に党勢の拡張を図る後同党評議員又事務委員たり此年神田区々会議員と為り十七年東京府會議員に挙げられ當置委員を兼ね又市区改正委員築港調査委員等に撰ばる二十年東京医学会の興るや之が法律顧問たり爾來神田区衛生会幹事、神田区学校委員、日本監獄協會議員、大日本教育會議員、東京組合代言会長、東京市會議員等に推薦せられ二十五年府下第七区より撰ばれて衆議院議員となる二十九年二月其職を辞し尋ねて弁護士組合を脱す此年渡邊洪基氏等と日本織物株式会社の設立に尽力する所あり三十二年再び弁護士登録を得此年七月東京府會議員に當選し市部會議長に挙げられ現に其職にあり東亜石油会社監査役たり君又俳諧を能くし聴雨窓竹冷と号す方今新派の宗

匠たり曾て秋声会を組織し雑誌「秋の声」を発刊す^⑤

竹冷は公務の傍ら、明治三〇年前後には「毎日新聞」選者や、尾崎紅葉等と「読売新聞」懸賞俳句選者も務めるなど俳人としても活躍していた。彼は先の「太陽」人氣投票で六位に入選しているが、そのきらびやかな経歴と俳諧の組み合わせが人々に魅力的に映ったのだろう。

かような竹冷が残花と共に謀り、紅葉へ働きかけたところ、大いに意気投合したという。紅葉は硯友社の同人雑誌「江戸むらさき」(明治三三)以来、俳諧に親しんでおり、小栗風葉や柳川春葉、泉鏡花等と紫吟社を結成、「読売新聞」等に盛んに句を載せていた。紅葉は、高山樗牛に「爾來彼を呼ぶに早く宗匠を以てすべき也^⑥」と嘆ぜしめるほど俳諧にのめり込んでいった。

明治二八年一〇月、彼らは以下の主旨の下に知人達へ呼びかけた。一我秋声会はなるべく広く俳諧を研究せんとして起れるものにして詞調の新古及び世に云ふ門派の異同は問ふ所にあらず偏に詞海の狂瀾を既倒にかへし琴柱に謬するの陋見を去りて真の風雅を振興さん事を期するものなり故に妄りに毛嫌ひするを許さず^⑦

風雅に辱められる者として門戸は問わず、広く江湖に人士を求めるといのである。これに弁護士板倉醉月や大審院判事川村烏黒、

硯友社系の作家が応え、東京帝国大学出身者を中心にした「筑波会」に属する大野酒竹、子規も出入りしていた「椎の友会」の伊藤松宇らも加わり、結果として秋声会は俳壇の一大結社として発足した。

だが竹冷や紅葉らが求める人士とは、明確なマニフェストに則つて募るといふより、交際上における気安い誘いだった。それが秋声会に独特の気分を醸成させる事になる。

明治二八年一〇月といえば、岡野知十が「俳諧風聞記」を「毎日新聞」に連載し、俳壇が二派に区切られるようになった頃である。子規や紅葉は「新派」、宗匠株を戴く俳諧宗匠は「旧派」とされ、「新派」は明治にあつて肯定すべき派、「旧派」は江戸の残滓として否定される派と、呼称に価値判断が入り込んで、俳壇は二分されたのである。秋声会はかような区分からすれば「新派」に属する。だが、もとより彼らは俳諧をひねるディレッタントであり、俳席を共にするのは趣味を通わせる俳人であればよいわけで、自然、新旧両派の区別は重要ではなくなる。つまり秋声会は、新旧両派が交わるサロンの様相を呈したところにその独特さがあった。知十が「僕は残花氏から促されて、その第一会に列した、旧派の方からは故松江子潭龍子杯も加はるのでこの会の主とする所は、(一)新旧を調和する(二)連句を研究するといふのであつた^⑧」と回想するのは、か

ような秋声会の気分をよく伝えている。

秋声会の初機関誌は、明治二年「秋の声」である。第一号は四六判型、唐紙仮袋綴の体裁、表紙の「秋の声」は紅葉の筆による。

奥付には明治二年一〇月三日印刷、明治二年一月三日発行、発行兼編輯人今澤瀧次郎、印刷人近藤圭造、印刷所近藤活版所、發行所万巻堂。定価は一部七錢。

はしかき 紅葉 山崎宗鑑 酒竹

聴雨窓漫話 竹冷 青燈余影 四丁

楽天居記 小波 俳句

附録

七部集連句注釈 支考発句集

創刊号に宗鑑や支考、蕉門七部集を取り上げるのは、「新旧の調和」「連句の研究」を旨とする秋声会の姿勢の表れであろう。七部集注釈には「炭俵」を取り上げているが、それは江戸以来多くの俳人が手がけるものだった。「新派」の子規等は、従来顧みられなかった天明期の蕪村を取り上げ、発句の鑑賞に熱中したが、彼らからすれば「秋の声」は古色蒼然に映ったろう。

秋声会の会員数は正確には不明だが、一号（明治二九・一一）に「今日迄に俳席二十六会出席する者恒に十五名より廿七名とす」とある。会員数をそのまま句作者数とするなら、存外少なかった事がある。

〈資料紹介〉「俳声」総目次

窺える。子規の擁する「日本」雑詠欄には多くの投句があり、句作者は秋声会より遙かに多かった。つまり秋声会は、俳壇としては一大結社だったかもしれないが、要は知己が頼りのサロンだったと言える。「秋の声」は三号（明治三〇・一二）から一般の投句を募集しているが、裏を返せばそれまで会員以外の投句を必要としなかった事であり、やはり同人間で愉しむ俳誌だったといえよう。

後年、小波は「同人雑誌に過ぎなかつたが、体裁の好いので評判も悪からず」と回想している。「同人雑誌」でありつつ「体裁の好い」という評は、「秋の声」の性格をうまく言い当てている。結局、サロンの彙報にも似た「秋の声」は、十号（明治三〇・一〇）で終刊してしまつた。

以後しばらく秋声会は主立った雑誌を持たず、徐々に会合も途絶えがちになつたらしい。かような折に会員の松田竹嶼が立ち上げた俳誌が「俳声」であり、それは「新旧の調和」をより示すものとなつた。

「俳声」創刊号は菊判型で六〇頁、奥付には明治三四年二月二〇日印刷発行とある。編輯兼発行人松田寅熊、印刷人大野喜六、発行所は俳声発行所。正確には秋声会の機関誌ではなく、竹嶼主宰の俳誌である。だが紅葉が「俳声」と申す雑誌近々発行の筈にて、是は四丁の親友にて、竹嶼と申す人出版者也、いはゞ秋声会の機関同

様の者に候^①と記したように、周囲は秋声会の機関誌と見なしていた。発行人の松田寅熊は俳号竹嶼、本名は白井寅雄、明治六年に九州熊本で生まれている。高等商業高校卒業後は会社で経理関係の仕事に就くが、「俳声」創刊時には俳諧に深く打ち込んでいた。後年「松田竹の嶋人」という名で小説「黒駒の勝蔵」（「都新聞」、大正一四〜同一五）等を手がけている。

創刊第一号は、表紙から裏表紙にかけて芭蕉の「幻住庵記」があらわれた。子規が顕彰した蕪村や大祇といった俳人ではなく、元禄の芭蕉を表紙に掲げるのは「秋の声」以来の姿勢であり、しかも「秋の声」より一歩進めた洒脱な意匠である。巻頭には計二三名からの祝句が掲げられた。

俳声を聞なら夜たゞ花の中

永機

俳声の発刊を祝して

永機

紅梅の朱唇美し春の風

酒竹

新旧派合同の雑誌を祝す

酒竹

解合へは同じ流の雪舞かな

幹雄

序開きや霰の幕のをりくそ

四丁

月と梅顔の揃ひし詩人かな

愚仏

鶯やうき世の夢をさます声

機一

はしめから根つくふりありさし柳

雀志

香に立つは日の恵みなり梅の花

竹嶼

幾つかを抜粋したが、老鼠堂永機、春秋庵幹雄、其角堂機一、雪中庵雀志等は江戸以来の名門を継ぐ宗匠達であり、「新旧派合同の雑誌を祝す」という幹雄の口吻からは、「旧派」が「俳声」を好意をもって迎えただろう事が窺える。「俳声」は創刊時から新旧両派の混淆をもって特色とし、それは第一巻第二号（明治三四・三）の執筆者一覧にも示されている。

本誌毎号に寄稿及び俳句選抜を諾せられたる斯道大家の諸氏は

左の通り

文学士 久保天随君

半日庵芳律宗匠

尾崎紅葉君

史登齋碧海宗匠

伊藤松宇君

完花亭半翠宗匠

瀧川愚仏君

老鼠堂永機宗匠

岡野知十君

春秋庵幹雄宗匠

内田魯庵君

四海庵天六宗匠

文学士 大谷繞石君

其角堂機一宗匠

森 無黄君

雪中庵雀志宗匠

井上秋剣君

一椽居許什宗匠

大野洒竹君

双柳園晚香宗匠

鶴澤四丁君

稻の家悟友宗匠

川村烏黒君 夜雪庵金羅宗匠

角田竹冷君 夜鶴庵覺齋宗匠

在独逸 岩谷小波君 太白堂桃年宗匠

秋元洒汀君 不白軒梅年宗匠

菜窓無角君 花の本聴秋宗匠

戸川残花君 不白軒梅年宗匠

森 猿男君 七十二峰庵十湖宗匠（順不同）¹²⁾

かような「俳声」は、子規等の「ホト、ギス」とは異なる古俳諧への姿勢を見せることとなった。長く連載されたものに、久保天随が許六編「風俗文選」を注釈を交えて繙く「風俗文選釈義」、古今の発句から百句を抜いた井上秋剣「新選俳諧百人一首」があるが、井上はその冒頭を「風寒し破れ障子の神無月 山崎宗鑑」「元朝や神代の事もおもはる、荒木田守武」で飾っている。完華亭半翠が歌仙の式を説き、雪中庵雀志が雪門で歌仙を巻くなど、「俳声」は「ホト、ギス」では考えられない角度からの俳諧の親炙を示した。なお「俳声」という題が秋田県の俳誌「俳星」（明治三三創刊）と音が重なるため、両誌で些かのやりとりがあった。「俳星」は子規門下の石井露月の主宰であり、題は子規の命名によるものである。両誌のやりとりは秋声会と子規派の対立の様相を呈したが、互いの言い合いに終わっている。

〈資料紹介〉「俳声」総目次

古俳諧の文物に傾倒したのも「俳声」の特色である。第一巻第四号（明治三四・五）には蓼太賛月岡雪鼎、第一巻第六号（明治三四・七）には西山宗因・齋藤徳元短冊、第二巻第三号（明治三五・三）には其角・嵐雪大短尺絵表装二幅対などが紹介され、その片鱗を窺う事ができる。

執筆者陣はおおむね秋声会会員と宗匠達だったが、やがて俳誌の後見として、秋声会とは別の集いを立ち上げる事となる。会は俳声会と命名、以下の会則を設けた。

○俳声会々則

第一 本会は俳声会と称し俳諧を研究せんと欲するもの、団結に成る

第二 本会は雑誌俳声を以て是れが機関雑誌と為す

第三 本会は隔月或は毎月例会を開き斯道の研究を為す

第四 本会例会には斯道大家の出席を乞ひ俳道有益の談話あり

と兼題及び即吟俳句の選評を乞ひ其他趣味ある余興あり

第五 本会々員たらんと欲する人は何人にも入会することを

得

第六 会員は入会の節宿所姓名雅号を明記し入会金として金五

拾銭を添へ申込むへし

但し例会々費は出席の会員の実費を申受くべく別

段毎月会費として納むるに及はず従つて其機関たる俳声は最寄売捌店又は本社直接に購読せらるゝとも随意たるべし

第七 本会々員は例会の兼題俳句を出吟し得ると当日出席の権を有す

会員外の者は如何なる情実あるも例会に出席するを得ず

第八 会員にして遠隔の地に在り例会に出席し能はざる人には兼題の出句迄に止め置き左の特権を与ふ

会員十名以上の詠句は隔月一回無料にして大家の選評を乞ふことを得

第九 地方に支部を置き会の拡張を計る其支部長は本会より人選して更に委託すべし

第十 小石川区武鳴町十五番地俳声発行所を以て本会本部と為す

俳声会

本会名誉会員

尾崎紅葉君 角田竹冷君 久保天随君 伊藤松宇君 森無黄君
岡野知十君 齋藤松洲君 川村烏黒君 瀧川愚仏君 小島無角君
森猿男君 大野洒竹君 戸川残花君 鷗澤四丁君 井上秋

劍君（順なし）¹³⁾

名誉会員には巖谷小波、丸岡九華、内田魯庵も加わり、秋声会の人脈をつてに広がる一方、新入会員には主に東京在住の一般会員が多く名を連ねている。「俳声」は「秋の声」のサロンの気分を生かしつつ、一般にも門戸を広げ、誌面を活気付けようとしたのである。それゆえ「俳声」は創刊号から一般の投吟句を募ったが、特色は句合に力を入れた事である。

句合とは左右に俳句を合わせ、判者に勝敗を委ねる作法である。句作者が判者を兼ねる事もあるが、「俳声」は俳声会名誉会員が判者を務め、読者からの投吟をさばいた。蕉門の『貝おほひ』（寛文一二年）、「句兄弟」（元禄七年）を慕ったかのような傾倒ぶりだったが、しかしそれは厳密に優劣を問うのではなく、判者として句をさばく遊戯めいた手つきに、投吟句が秤に掛けられる事自体に愉しみを見出すものだった。

さて秋声会から独立した俳声会は、明治三四年一二月一日に松田竹嶼宅で第一回例会、同三五年二月二日に上野無極亭で第二回例会、及び同三五年四月一三日に「俳声会観桜俳席」として第三回例会が催され、多くの会員が駆けつけた。また第二巻第五号（明治三五・五）には、今後例会を毎月一回、竹嶼宅にて催す広告が掲げられている。しかし月ごとの例会は不首尾に終わった。というのも紅

葉はすでに病が悪化、竹冷は多忙を極めて例会に顔を出さない。酒竹や小波といった名誉会員も軒並み欠席を重ねたからである。

例会の不調と示し合わせるように、明治三五年も半ばを過ぎると雑誌の運営が思わしくなくなっていた。紅葉や竹冷等の名誉会員が投稿しなくなり、ために一般会員や新進作家に多く俳句や文を募る旨が記されるようになる。加えて第二巻第六号（明治三五・七）以降は遅刊が目立ちはじめた。

本号表紙には七月卅一発行と之有候得共實際表紙はとくに印刷致し置き候ものにて今更変更も出来難く其儘此表紙を使用致したるにて実際の発行は八月廿七日に有之候條左様御了承被下度候^⑭

本来第二巻第六号は明治三五年六月末の発行だが、実際は八月末にずれこみ、続く第二巻第七号は一〇月、第二巻第八号は一二月にずれこんでいる。第二巻第八号には「今廃刊したならば自分が二年の間辛苦に艱難を積んで今日まで至らしめたのが、虻蜂取らすの水の泡になつて仕舞ふ^⑮」とまで記され、この頃はすでに廃刊がちらつくほどの苦境だった事が窺える。村山古郷は「第二巻九号で廃刊した^⑯」と記すが、管見で確認しえたのは第二巻第八号までであり、恐らく第二巻第八号からほどなく終刊したと考えられるが、その後の消息は詳かにしない。

〈資料紹介〉「俳声」総目次

なお「俳声」には、叢書に『俳声叢書第一篇 夏炉冬扇』がある。奥付は明治三四年六月二日印刷、明治三四年六月二日発行、編輯兼発行人松田寅熊、印刷人大野喜六、印刷所成功堂、発行所俳声発行所。「俳声」に載る広告に一部二〇銭とある。

俳諧二日旅	鶴澤四丁	修善寺便り	尾崎紅葉
借宅庵記	川村烏黒	蝙蝠俳諧	井上秋剣
恋句について	戸川残花	小金井の桜狩	滝川愚仏
俳席雑談	角田竹冷	高几童	岡野知十
俳諧実なし柿	松田竹嶼	大磯の一夜	久保天随
蕪村の品性	大野洒竹	芭蕉の性癖及び行状	内田魯庵
緑陰落書	菜窓無角	竹の落葉	伊藤松宇

附録（花の下露）

多くは「秋の声」等の文章を転載したもので、秋声会会員達の文章を示すための叢書であろう。芭蕉が風雅の精神を示した「夏炉冬扇」を題に冠したのは、「俳声」と二貫した姿勢の表れである。「俳声」の一般募集句で各三光（「天地人」の上位三位）に入選した俳人達にも、時折贈呈された。叢書は第二篇の企画もあつたらしいが、ついに上梓されなかった。

「俳声」の俳人達は新旧両派の別なく交わり、俳席においては歌仙を巻き、句合に興じるとみれば、短冊や文台といった骨董にも目

がなかった。「俳声」は子規が思いつめた「写生」俳句とは異なる俳諧が、明治の同時代にあった事を示している。

俳人達の書誌についても注目すべきところが多い。例えば第一巻第五号(明治三四・六) 彙報欄に載る尾崎紅葉の「神垣の巖と成りて浪涼し」「团扇の手たゆき鍾馗の妹かな」は、『紅葉句帳』(星野麦人編、文禄堂書店、明治四〇) 夏部に収められる句である。『紅葉全集』第九卷(岩波書店、平成六)は「俳諧」欄を設け、彼が雑誌や新聞に発表した句を、句集との重複に関わらず編年順にまとめるが、先の二句は漏れている。だが全集が編まれている紅葉はともかく、竹冷や小波、永機や雀志などの句は必ずしも整備されているとはいえない。竹冷等の書誌をまとめる際、彼らの句等が多々掲載される「俳声」は大変有益な資料である。

句作や俳論を解釈するのは別稿に譲り、本稿では概略を述べるに留めた。

注

- ① 「太陽」五一〇(明治三一・五・五、二七〇)―二七一頁
- ② 主な先行研究には以下の論考がある。
 - ・村山古郷『明治俳壇史』(角川書店、昭和五三・九・二五)
 - ・同「秋声会の歩んだ道」『明治大正俳句史話』(角川書店、昭和五七・四・一五) 所収

- ③ 同「明治の俳句と俳人たち」(河合書房新社、昭和五八・七・八) 巖谷小波「秋声会の思ひ出」『俳句講座 現代結社篇』(改造社、昭和七・一二・一五)、二四七頁
- ④ 岡野知十「俳諧又聞記(上)」『女学雑誌』四一五号(明治二八・一〇・二五)
- ⑤ 「明治現今人名辞典」(日本現今人名辞典発行所編・刊、明治三三・九・三〇)、つノ十九頁項
- ⑥ 高山樗牛「明治三四年の文学界」『太陽』八一(明三五・一・五)、附録一六頁
- ⑦ 角田竹冷「聴雨窓漫話」『秋の声』一号(明治二九・一一・五)、一五頁
- ⑧ 岡野知十「秋声会論(上)」『俳声』一一四(明治三四・五・二〇)、一四頁
- ⑨ 前掲「聴雨窓漫話」、一五頁
- ⑩ 前掲「秋声会の思ひ出」、二五三頁
- ⑪ 巖谷小波宛書簡、明治三四・二・八付『紅葉全集』一二卷(大岡信・岡保生・十川信介・丸谷才一編、岩波書店、平成七・九・二七)、一〇一頁
- ⑫ 「俳声」一一二(明治三四・三・二〇)、頁数無表記(起頁から八三頁目)
- ⑬ 「俳声」一一八(明治三四・九・二〇)、七〇頁
- ⑭ 「俳声」二一六(明治三五・七・三二)、六六頁
- ⑮ 「俳声」二一八(明治三五・一一・一〇)、六七頁
- ⑯ 前掲「秋声会の歩いた道」、一〇四頁

凡例

一、本目録は俳句文学館及び早稲田大学中央図書館の所蔵にかかる「俳声」一九冊の総目次である。

一、各号冒頭に巻号と発行年月日を【】内に掲げ、次に本文の詳細を示した。

一、欄名をゴチック体で示し、そこに収められた俳句や文章を題名、執筆者名、頁数の順で示した。本文に欄名が掲げられず、目次には掲げられている場合は目次に従って表記し、その際（ ）で囲った。

一、頁数が付されない頁は（*頁数無）と補記した。

一、執筆者名が複数の場合は・で区切り、無署名の場合は（無署名）と表記した。また執筆者名が同一人で異なる表示の場合はそのままとした。

一、俳句は（*俳句）と補記し、また無題の俳句は題の箇所に（*俳句）と補記し、頁数を示し、改行した後、俳号、句数の順に示した。俳号、句数は縦の行に従って示し、原則として一行ごとに三者で区切って示した。俳号ごとに・で区切り、句数を（ ）内に示した。文章に挿入されている俳句は文章の題名等を示し、改

行した後、俳号及び句数を*○○（○句）と補記する事で示した。また連句も俳句と同様に示し、（*連句）（*歌仙）（*半歌仙）等と補記した。

一、選句は題と季題を掲げ、（*選句）と補記し、改行した後、選者名、頁数の順に示した。季題が複数の場合は・で区切り、選者が複数の場合は選者ごとに頁数を示した。文章中に挿入されている選句は俳句の場合と同様に示し、（*選句）と補記した。

一、巻頭に掲げられる画や写真は（口絵）（写真）と項目冒頭に補記し、題、画作者（あるいは撮影者）、頁数の順で示した。同頁に複数枚掲載されている場合には・で区切った。無題の場合は目次に掲げられた題に従って表記し、その際は（ ）で囲った。また文章中に挿入される画は、文章の題名等を示した後、改行してから題名、執筆者名、頁数の順に示し、（*画）と補記した。

一、「古池の小波」「俳況」等の彙報欄は（*彙報欄）と補記した。彙報に題がない場合には（*彙報○件）と補記して件数のみを示した。題がある場合には題名、頁数の順で示した。欄名がある場合には欄名を示して後に題名、頁数の順に示した。また彙報の内容が選句の場合は、題の後に選者名を（○○選）と表記する事で示した。

一、葉書投書は（*投書○件）、投書短文は（*投書短文○件）と

補記する事で示した。

一、広告は「へ広告」と項目冒頭に補記した。また各号巻頭や末尾の
広告頁に掲げられる書名や雑誌名には「」を付し、出版社名等
も併せて表記した。同頁に複数の広告がある場合は・で区切り、
本文と別に頁数が付される場合は（*広告頁）と補記した。

一、各号末尾に掲げられる次号募集俳句、雅号、雑記、俳画等
は、・で区切って列挙した。

和風緑野

風俗文選積義（一）

俳諧修辭字

歌仙の式

晚鴉点々

俳諧有声

*紅葉（一句）

大淀三千風（二）

俳諧の用語に付ての注意

俳諧閣の序

俳諧もう少し

古池私説

俳諧袋

*俳句

十千万堂（二二句）

当今の俳潮を論して松田竹嶼君に与ふるの書 上

*俳句

愚仏（五句）・半翠（四句）・無黄（三句）・

金羅（二句）・機一（二二句）・知十（二二句）・

文学士 久保天隨 一〇〇

鶴澤四丁 四〇

完華亭半翠 一〇〇

紅葉山人 一二

文学士 久保天隨 一二〇

無黄 一五〇

井上秋剣 一八〇

四丁 一九〇

雪山丁人 二〇〇

松田竹嶼 二二〇

二四〇

二五〇

岡野知十 二五〇

二八〇

（無署名）（*頁数無）

（*俳句）

永機（二句）・洒汀（二句）・幹雄（二句）・

四丁（二句）・悟友（二句）・烏黒（二句）・

許什（二句）・愚仏（二句）・碧海（二句）・

覚齋（二句）・松宇（二句）・如笑（二句）・

金羅（二句）・化風（二句）・天六（二句）・

閑翠（二句）・維石（二句）・晚香（二句）・

半翠（二句）・芳律（二句）・機一（二句）・

雀志（三句）・竹嶼（二句）

発刊の辞

松宇(三句)・鳥黒(二句)・竹嶼(四句)・

維石(二句)・四丁(二句)

所謂点取運座に就て

俳諧新詩料

伊藤松宇君の書翰

猫の人真似

俳諧何としやう

鶴橋 二九〇三二

秋元酒汀 三一〇三二

松宇 三三三

松田竹嶼 三三三三四

磯川斗升 三五〇三六

滄海拾珠

題 梅・鶯 (*選句)

完花亭半翠宗匠選

瀧川愚仏先生選

雪中庵雀志宗匠選

岡野知十先生選

温古抄

十八番句合

短冊書様の事

歌書様の事

扇子の事並に其書様の事

雑煮の事

薪能の事

執筆の伝

俳諧初心者的心得

傍題落題の弁

長嘯作虫歌合

古池の小波 (*彙報欄)

(*彙報二三件)

*小波(一句) *柳葉(二句) *其朝(二句)

座興庵桃青判・竹嶼翻刻

(無署名) 四六〇四八

(無署名) 四九

(無署名) 四九

(無署名) 四九〇五〇

(無署名) 五〇

(無署名) 五〇〇五一

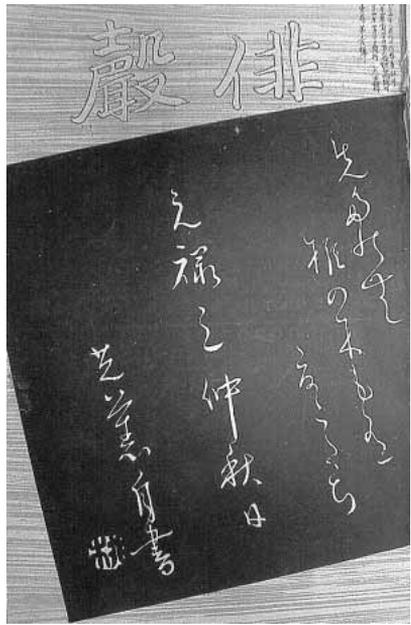
(無署名) 五一〇五二

(無署名) 五二〇五六

(無署名) 五六〇六一

六一〇六六

六二〇六六



第一卷第一号表紙(俳句文学館蔵)

【第一巻第二号（明治卅四年三月二十日印刷発行）】

* 潔（一句） * 四丁（一句） * 烏黒（一句）

* 十湖（二六句） * 翠影（一句） * 湖雪（一句）

* 閑月（三句） * 静堂（二句） * 筑山（二句）

* 可都美（一句） * 花翁（一句） * 小築庵春湖（一句）

* 花の本聴秋（三句） * 竹操（二句） * 柳村（二句）

* 佳山（二句） * 白嶺（二句） * 松圃（一句）

* 香軒（二句） * 春楽（二句） * 露光（二句）

* 寒香（二句） * 愛山（二句） * 半雨（二句）

* 梅点（一句） * 栞庵清雅女宗匠選（*選句）

芭蕉会員に告ぐ 少文豪社 六七

第二号掲載俳句募集 題 蛙、雛（無人花何句にても随意返草な

し）（景物は天地人へ青年画家中其名噴々たる戸田玉秀先生近

藤樵仙先生の両画伯に揮毫を乞ひ各選者の其抜句を自筆したる

幅地を呈す）（*頁数無）

〈広告〉「あだ浪」文禄堂 一（*広告頁）

〈広告〉「百千種句集」精々堂 二（*広告頁）

〈広告〉「明義」明義雜誌社 三（*広告頁）

〈広告〉「女子教育」女子教育研究会 四（*広告頁）

〈写真〉音羽護国神寺之松籟・赤坂弁慶橋之春光

大石良之氏撮影（*頁数無）

〈写真〉江戸川之桜雲・小石川関口之霜晴

河野露竹氏撮影（*頁数無）

〈写真〉印譜（無署名）（*頁数無）

和風緑野

風俗文選積義（二） 瓢辞 文学士 久保天随 一〇八

言霊の略解 完花亭半翠 八〇一

俳諧修辞序（二） 鵜澤四丁 一一〇一九

歌仙の式（承前） 完花亭半翠 一九〇二〇

晚鴉点々 雀志 二二〇三三

鳥のあと 雀志 二二〇三三

さび、しをりに就きて 瀧川愚仏 二二三二六

（*俳句） 知十（二句）・永機（二句）・洒竹（二句） 二二六二七

松宇（四句）・無黄（三句）・半翠（二句）

洒汀（二句）・四丁（二句）・竹嶼（四句）

雀志（三句）

月庵記抄

知十 二七～二九

蕪村遺稿を読む

藤原拈華

四五～四九

* 知十 (四句)

* 愚仏 (三句)

* 松宇 (三句)

出代十句 (*俳句)

五〇

* 洒汀 (三句)

* 虚白 (二句)

* 黄雨 (二句)

小山紅露 (一〇句)

* 文六 (二句)

* 竹冷 (二句)

* 紅葉 (二句)

新旧兩派の區別

鯉鮮樓主人

五〇～五一

春十句 (*俳句)

二九

新聞俳壇略評

局外生

五一～五四

愚仏 (一〇句)

滄海拾珠

和漢学者の眼より見たる俳諧

伊藤松宇 二九～三二

題 蛙・雛 (*選句)

自画猫の贊

鳥黒

三二

鵝澤四丁先生選

五四～六〇

* 鳥黒 (二句)

老鼠堂永機宗匠選

六〇～六二

新撰俳諧百人一首 (一)

井上秋劍 三二～三七

半日庵芳律宗匠選

六三～六四

排頭吟 (*俳句)

三七

尾崎紅葉先生選

六四～六六

雲操居松宇 (一〇句)

温古奏園

戲牛之卷 (半歌仙) 秋元洒汀独吟・岡野知十評

三八～三九

蛙あはせ

(無署名翻刻)

六七～六九

探梅十句 (*俳句)

三九

大淀三千風の弁女殿風景

(無署名翻刻)

六九～七〇

枯木庵主 (一〇句)

東順居士終焉記

(無署名翻刻)

七〇～七二

俳諧袋 (承前)

松田竹嶼 三九～四二

古池の小波 (*彙報欄)

七二～七九

六花續粉

(*彙報二件)

俳諧小言

雨六 四三～四四

* 月庵知十宗匠選 (*選句)

* 穂麦庵逢壺大人選 (*選句)

和漢行

怡亭独吟 四四～四五

* 千種堂蟬蛾 (五句)

* 五乳人釣雪 (一句)

* 怡亭 (二八句)

* 紫花園素一 (三句)

* 完花亭宗匠選 (*選句)

〈口絵〉十千万堂点式

(※頁数無)

* 一桵居宗匠選 (※選句) * 桶の家宗匠選 (※選句) * 内藤鳴雪先生選 (※選句) * 双柳園晚香宗匠選 (※選句)

和風緑野

* 南山居宗匠選 (※選句) * 桜雲舎宗匠選 (※選句)

俳諧修辭序 (三)

鶉澤四丁 一〇七

* 村雨軒宗匠選 (※選句) * 夜莊庵宗匠選 (※選句)

歌仙の式 (三)

完花亭半翠 七〇

〈広告〉「花月新報」花月新報社・「芭蕉会事務」少文豪社 七九

風俗文選釈義 (三) 示秋之坊辞

久保天隨 一〇一四

奇贈書目

八〇

晚鴉点々

〈広告〉「文豪」北上屋書店・「公益新報」公益新報社 (※頁数無)

江戸川俳筵雜記

四丁庵 一四一七

第三号掲載俳句募集 題 花 (句中女を遣ふて) (無入花一人五

* 紅葉 (一句)

* 愚仏 (三句)

* 竹嶼 (二句)

句を超ゆべからず) (景物は天地人へ川村雨六先生澤田雪溪先

* 松宇 (三句)

* 秋劍 (三句)

* 四丁 (二句)

生の画面伯に揮毫を乞ひ各選者の其跋句を自筆したる幅地を呈

* 無黄 (四句)

* 鳥黒 (三句)

* 天隨 (四句)

す)

(※頁数無)

* 竹冷 (六句)

〈広告〉「あだ浪」文禄堂

(※頁数無)

大淀三千風 (二)

久保天隨 一七二〇

〈広告〉「会員募集」日本絵画通信講習会・「第廿六回懸賞俳句募集

仮名なしの俳句

森無黄 二〇一

広告」互楽吟社

(※頁数無)

* 松宇 (四句)

* 秋劍 (二句)

* 愚仏 (一句)

* 麦人 (一句)

* 鳥黒 (二句)

* 竹嶼 (二句)

* 酒竹 (一句)

* 竹冷 (二句)

一一一

(※俳句)

一一一

〈写真〉(口絵写真版)

(※頁数無)

無黄 (四句)・松宇 (四句)・紅葉 (一句)

紅葉、竹冷、永機、天隨、雀志、機一、秋劍、松宇、四丁、愚

口味庵私録

知十 二二一

仏、鳥黒、洒竹、耕雨、無黄、半翠、竹嶼

(※俳句)

一三三

烏黒(二句)・秋剣(五句)

(和漢学者の眼より見たる俳諧(承前)

伊藤松宇 二三〜二六

碑探しの記

松田竹嶼 二六〜三二

(*俳句)

三二〜三三

永機(二句)・知十(二句)・無黄(六句)・

愚仏(二句)・洒汀(三句)・竹嶼(四句)・

半翠(七句)

新撰俳諧百人一首(二)

井上秋劍 三二〜三八

俳人としての井原西鶴

秋元洒汀 三八〜四一

*洒汀(二句)

森猿男君の書翰

猿男 四一

*猿男(四句)

六花續粉

鶯笛

指頭庵 四二

紙魚集 春十句 (*俳句)

藤原拈華(一〇句)

福原雨六 四二〜四四

雁来と函館山の観音

集字の巻 (*半歌仙)

四四

芭蕉(脇起)・竹井鉛亭(二七句)

蚊学士 四四〜四七

春霄十句 (*俳句)

四八

小山紅露(二〇句)

成美と遅月の擬古両吟

星野麦人 四八〜四九

項門の一針

俳声記者の一人 四九〜五一

滄海拾珠

題花 (*選句)

春秋庵幹雄宗匠選

五一〜五四

伊藤松宇先生選

五四〜五五

一桜居許什宗匠選

五五〜五七

川村烏黒宗匠選

五七〜五八

温古莠園

十八番句合(承前)

坐興庵桃青判(無署名翻刻)

五八〜六〇

山中歌仙

(無署名翻刻)

六〇〜六二

古池の小波(*彙報欄)

六二〜六五

函館新声社の詠句(内藤鳴雪翁選)

六二〜六三

花月会

六三

完花亭宗匠病氣全快祝賀連坐(完花亭宗匠選)

六三

東杵庵宗匠の祝句

六三

函館青蕪会

六三〜六四

虚心庵の辞世

六四

東水居の観桜会

六四

正誤

七二

南無庵宗匠の近詠

六四

海庵月子女子山生祝賀集（完花亭宗匠選・仏花園宗匠選・梅庵桜

月先生評・晩花亭如雪先生評・万翠亭花城先生評・朴亭竹華先

生評・桜花亭半雪先生評・吟花亭好処先生評・夢の家二蝶先生

評・汀庵漣子先生評・秋郊庵乙露先生評・仙招庵愛痴先生評・

樞華亭仙翠先生評）

六四～六五

蜂庵採花女宗匠の易簀

六五

有声会（其角堂機一宗匠選）

六五

小石川江戸川の桜花

六五

春雑詠 弥生吟社

六六

雀会月次例会（月庵知十先生選・従来庵斗大翁選）

六六～六七

指頭庵宗匠の近詠

六七

千種堂宗匠の新声

六七

花と蛙 聴声社

六七～六八

雀会第十六回（月庵知十先生選）

六八～七〇

銚田野田男爵の近什

七〇

編輯雑録

（無署名）

七〇～七一

寄贈書目

七一～七二

牛込の花実会

七二

第四号掲載募集俳句 題 行春、幟（無入花一人六句を超ゆべか

らず）（景物は天へ金森南塘翁染筆の絵画幅物地を呈し地人へ

は選者自筆の短冊を呈す）・葉書投句 題 四季随意（句数定

限なし）（無入花無景物）・第五号掲載募集俳句 題 入梅、火

串（無入花一人六句を超ゆべからず）（景物は天へ近藤樵仙先

生染筆の絵画幅物地を呈し地人へは短冊を呈す）・葉書投句

題 四季随意 一（*広告頁）

本号前号第二号目次 二（*広告頁）

〈広告〉「文豪」北上屋書店 三（*広告頁）

〈広告〉「俳諧評論」「発句切字弁」「猿蓑評秋色眼鏡」「俳句作例て

にをは糸車」俳諧評論社・社告 白人会記 句集春の部 四（*広告頁）

【第一卷第四号（明治卅四年五月二十日印刷発行）】

〈写真〉雪中庵蓼太賛 月岡雪鼎画（*頁数無）

〈写真〉東水居席上合作揮毫（*頁数無）

〈写真〉山吹の里遠望・雜司ヶ谷涼月塚・関口芭蕉庵

露竹子・空坊子撮影（*頁数無）

和風緑野

俳諧修辭学(四)

鶴澤四丁 一〇五

歌仙の式(四)

完花亭半翠 五〇九

風俗文選釈義(四) 示僧古鏡辭

久保天隨 九〇四

晚鴉点々

新撰俳諧百人一首(三)

井上秋剣 一五〇二

白人会記

左独逸 岩谷小波 二二〇二

*晴月(四句)

*喜仙(四句) *空々(三句)

*醉香(九句)

*小波(二〇句) *古泉(二句)

*百樹(八句)

*越嶺(二句) *湖月(二句)

*鼠禪(三句)

*桂亭(二句)

大あばた集(*俳句)

二四

知十(九句)

六彩居即興(*連句)

二四

竹冷(二句)・松宇(二句)・無黄(二句)

(*俳句)

二四

無黄(二句)・竹冷(二句)・松宇(二句)

芥草紙(*俳句)

愚仏 二四〇二五

愚仏(二七句)

俳諧楽屋もの語(二)

行々子 二五〇二六

味庵私録

知十 二六〇二八

竹の園生の繁り茂りて常磐堅盤に御栄え目出度き大御代に今上陛下第一の皇孫御降臨誕あらせられたるを祝し奉りて(*俳句)

二七

紅葉(二句)・無黄(二句)・秋剣(二句)・

竹嶼(二句)・機一(二句)・松宇(二句)・

四丁(二句)・愚仏(二句)・竹冷(二句)・

烏黒(二句)・知十(二句)

十千万堂君の書翰

紅葉 二八

*紅葉(一句)

俳席二つ(木の芽会 愚仏君送別会) 松田竹嶼 二九〇三三

*秋剣(二句)

*柳村(三句) *竹嶼(六句)

*草露(三句)

*巴山(二句) *天隨(四句)

*雨六(一句)

*紅葉(三句) *斜汀(二句)

*愚仏(五句)

*苔花(四句) *麦人(三句)

*活東(一句)

*西男(四句) *四丁(二句)

*竹冷(一句)

*飯人(三句) *大羽(二句)

*松宇(二句)

*式子丸(二句) *黄雨(一句)

*知十(一句)

*烏黒(一句)

随説随抄(二)

魯庵生 三三〇三五

二十日草 (*俳句)

三五

森無黄宗匠選

四九〇五三

蓮花庵秋剣 (二二句)

六花續粉

浜の離宮に催ふさせ給ひたる観桜の御宴に陪し奉りて (*俳句)

文化文政の俳壇 (附遠藤日人の事)

斗升庵主人 五四〇五七

三五

仮名なしの俳句

蚊学士 五七〇五八

愚仏 (八句)・猿男 (三句)・松宇 (四句)

*蚊学士 (六句)

鳥の跡

雪中庵雀志

三六〇三七

圭虫 (八句)

五八

(*俳句)

三七〇三八

一重襖

僕山人 五八〇六〇

永機 (五句)・無角 (七句)・無黄 (五句)

仮名なし俳句 (*俳句)

六〇

大磯の一夜

天随生

三八〇三九

雪山丁人 (五句)

六〇

*天随生 (三〇句)

端午十句 (*俳句)

六〇

鳥の鶺鴒の真似

竹嶼

四〇〇四二

小山紅露 (八句)

六〇

*無黄 (二句) *竹嶼 (二句)

我等の思ふところ

六二

(*俳句)

四二

二葉草 (*俳句)

函館 雨六 六〇〇六二

雀志 (三句)・竹嶼 (五句)

中原清秀 (七句)

六二

滄海拾珠

短夜集

六二

題 (*無題) (*選句)

月の雲の巻 (*歌仙)

大島宝水 六二〇六三

其角堂機一宗匠選

四二〇四七

皓々庵葉々 (一八句)・歸兮園恰亭 (一八句)

六三〇六四

(*画)

竹嶼

四三

今様船納涼の巻 (*歌仙)

六四〇六五

伊藤松宇宗匠選

四七〇四八

俳目連 (三六句)

六四〇六五

余興 (葉書投句) 四季混題 (*選句)

俳目連 (三六句)

落葉飛來（端書投書）（*投書一六件）

六五〜六六

炎天、夏瘦、夕顔（一人二句宛都合六句を超ゆべからず）（景

古池小波（*彙報欄）

六七

物は天へ山田寒山翁製の陶印に受賞者の雅号を篆刻したるもの

稲の家君の近詠と書翰

六七

を呈し地人は選者自筆の短尺を呈す）・余興 葉書投句 題四

* 悟友（三句）

六七

季随意 一（*広告頁）

盛岡の俳況

六七

寄贈書目・俳声第一卷第三号目次 二（*広告頁）

富山市の俳況

六七

〈広告〉「俳諧鳴鶴集」鳴鶴社・「椋の下風」椋園吟社 三（*広告頁）

函館新声社の詠句（内藤鳴雪翁選）

六七〜六八

〈広告〉「俳諧研究雜誌越の曙」千歳社・「俳諧雜誌つくし」つくし

有声会（写松庵君選）

六八

発行所・雀会第十九回月次課題 四（*広告頁）

若葉集

六八〜六九

羽後国六郷暢神会第十三回催（其角堂機一君選）

六九

【第一卷第五号（明治卅四年六月二十日印刷発行）】

曙古池連（坂上庵浪兄君選・香蘭居清左君選）

六九

〈写真〉在独逸小波君よりの来状自画葉書（*二枚）（*頁數無）

名古屋の俳席

六九

和風緑野 鶴澤四丁 一〜五

千葉の俳況

六九

俳諧修辞学（五） 完花亭半翠 五〜九

雀会月次例会（知十先生選）

七〇〜七一

風俗文選釈義（五） 焼蚊辞 久保天隨 九〜一三

牛天神奉燈句集（完花亭半翠君選）

七一〜七二

歌仙の式（五） 晚鴉点々 岡野知十 一三〜一七

編輯雜録

（無署名）

七二

秋声會論（上） 竹嶼 一五

第五号掲載募集俳句 題 入梅、火串（一人一題三句宛都合六句

を超ゆべからず）（景物は天へ山田寒山翁製の陶印に受賞者の

雅号を篆刻したるものを呈し地人へは短尺を呈す）・余興 葉

書投句 題四季随意（無入花無景物）・第六号分募集俳句 題

（*俳句） 一七〜一八

〈資料紹介〉「俳声」総目次

在独逸小波（五句）・紅葉（三句）

大野洒竹宗匠選

三七〇三八

さびしをりに就きて（承前）

瀧川愚仏 一八〇二〇

雪中庵雀志宗匠選

三八〇四七

二三片（*俳句）

二〇〇二二

余興（葉書投句） 四季乱題（*選句）

四七〇五〇

知十（五句）

四丁庵 二一〇二二

伊藤松宇宗匠選

四七〇五〇

俳諧囃草

四丁庵 二一〇二二

完花亭半翠宗匠選

五〇〇五五

*四丁（七句）

（*画）

竹嶼

五三

（*俳句）

二二〇三三

六花續粉

宇賀の浦人

五六〇五八

愚仏（八句）・松宇（六句）・猿男（八句）

汽車俳話

五八〇五九

永機（六句）・無黄（五句）

漢和对訳（*俳句）

五八〇五九

俳諧楽屋もの語（二）

行々子 二二三二六

竹井恰亭（一八句）

五九

*無黄（二句）

貝から（*俳句）

五九

二十日草（*俳句）

二六

中原清秀（九句）

五九

蓮花庵秋剣（一六句）

二六

施頭句

星野麦人

五九〇六〇

俳諧百人一首（四）

井上秋剣 二六〇三三

当今の俳調

立見生

六〇〇六一

（*画）

竹嶼 二七

よしなし草

塵山人

六一〇六二

（*俳句）

三四〇三五

夏五吟（*俳句）

六二

雀志（三句）・残花（二句）・竹嶼（四句）

松田竹嶼 三五〇三七

久保田抱琴（五句）

六一〇六三

雨の繰り言

松田竹嶼 三五〇三七

悔菴句録（*俳句）

六一〇六三

滄海拾珠

上田龍耳（五句）

六一〇六四

題 入梅・火串（*選句）

落葉飛来（葉書投書）

（*投書二三件）

六一〇六四

古池小波（*彙報欄）

竹窓会

六五

函館新声社（内藤鳴雪翁選）

六五〜六六

盛岡の蕉談会

六六

千葉あなめ会（春秋庵幹雄選・太白堂桃白選）

六六〜六七

羽後国六郷暢神会題十五回（三河鋤雲居石芝君選）

六七

函館青蕪会

六七

若葉会 第二回（五月分）

六七

天声会の組織

六七

波除神社法楽俳句（十千万堂紅葉選・雲操居松宇君選・月庵知十

選・聴雨窓竹冷選・無黄君選・竹冷君選・松宇君選・紅葉君

選）
六七〜六九

*紅葉（二句） *松宇（二句） *知十（二句）

*竹冷（二句） *虚白（二句）

盛岡の互選会

六九

伊豆の俳況

六九〜七〇

牛込の俳席

七〇

雀会月次例会（月庵知十先生選・従来庵斗大翁選）

七〇〜七一

*知十（二句）

自讃会

七一

晚鐘会

七一

小石川涼風会

七一

社告

（無署名）

七一

編輯雜録

（無署名）

七一〜七二

第六号分募集俳句 題 炎天、夏瘦、夕顔（一人二句宛都合六句

を超ゆべからず）（天地人三光へ齋藤松洲君画の扇地紙を呈

す）・余興 葉書投句 題四季随意（無景物）・俳画募集 題

風（夏季） 寸法縦三寸未滿 横一寸五分未滿 用紙 薄美濃

紙（齋藤松洲君が厚意として自画の扇地紙を呈せらる）・第七

号分募集俳句 題 昼寝、蓮、心太（一人二句宛）（天地人三

光へ齋藤松洲君揮毫の扇地紙を呈す）・余興（葉書投句） 四季

随意
（*頁数無）

寄贈書目

（*頁数無）

〈広告〉「少年之思想」少年結社・青年文庫」有道館 一（*広告頁）

〈広告〉「雀会第廿回月次課題」・「牛込区通寺町勸業場燈籠俳句募

集」・「白虹」素娥文学会 二（*広告頁）

〈広告〉「細腰帶醉之図 梶田半古筆 あだ浪」文禄堂書店

三（*広告頁）

〈広告〉「俳声叢書第一篇 夏炬冬扇」俳声発行所 四（*広告頁）

【第一卷第六号（明治卅四年七月二十日印刷発行）】

〈広告〉「活文壇」 大学館 （*頁数無）

〈広告〉「雀会第廿一回月次課題」・「美妙」有隣堂書房・「新思潮」

鳴泉書院 （*頁数無）

〈広告〉「苦学界」 苦学社出版部・「穎才新誌」 穎才新誌社

（*頁数無）

〈広告〉「社会之敵 皚峰記」 東京堂

（*頁数無）

〈写真〉竹冷君、愚仏君、知十君 虚白子照写

（*頁数無）

和風緑野

風俗文選釈義（六） 鉢扣辞 久保天随 一〇五

歌仙の式（続） 完華亭半翠 五〇九

俳諧修辞学（六） 鶉澤四丁 九〇三

晚鴉点々

秋声会論（下） 岡野知十 一三〇

募集俳画 題 風（夏季）当選（*画） 秋露 一五

（*俳句） 永機（八句）・愚仏（五句）・松宇（八句） 一六〇

知十翁に与ふる書 戸川残花 一七〇

*残花（二句）

募集俳画 題 風（夏季）当選（*画） 其芳 一九
（*俳句） 紅葉（六句）・無黄（四句）・知十（五句） 二〇

十番門句合（*句合）

森無黄判 二〇〇

*愚仏（一〇句） *麦人（一〇句）

俳諧百人一首（五） 井上秋剣 二二〇

募集俳画 題 風（夏季）当選（*画） 朋齋 二二五

俳諧の連歌（*半歌仙） 老鼠堂永機選 二二六

其風（二二句）・永機（二二句）・梅甫（二二句）

俳諧楽屋ものがたり 行々子 二二七

团扇十二句（*俳句） 二二八

秋剣（五句）・竹嶼（七句）・九華（四句）

募集俳句を選びし筆の序に 森無黄 二二九

（*俳句） 三〇

四丁（四句）・雀志（二句）・竹嶼（四句）

半日の逍遙 松田竹嶼 三〇〇

*竹嶼（五句）

六花續粉

蝦夷の俳句 雨六 三〇〇

募集俳画 題 風(夏季) 当選 (*画) 南畝 三七

(*俳句) 箕田凌頂(六句) 三八

河合曾良の墓 中原清秀 三八〜三九

す、み舟 (*俳句) 三九

上田龍耳(五句) 子俊生 三九〜四〇

予の思ふところ 和楽投 四〇〜四二

咫尺齊和の家譜 募集俳画 題 風(夏季) 当選 (*画) 素州 四一

夏の鎌倉 (*俳句) 浪花 桂江庵主人 四二〜四三

南水(二七句) 有馬たより 浪花 桂江庵主人 四二〜四三

*桂江庵主人(二八句) 宗祇四百年忌 六月十四日の詠句 四三〜四四

(*俳句) 旭桐(二句)・清秀(三句)・紅露(二句)・ 六月十四日の詠句 四三〜四四

酔骨(二句) 落葉飛來(葉書投書) (*投書九件) 四四〜四五

滄海拾珠 題 炎天・夏瘦・夕顔 (*選句) 四五〜五五

森無黄宗匠選 完花亭半翠宗匠選 五五〜六二

余興(葉書投句) 四季乱題 (*選句) 六二〜六五

鶴澤四丁宗匠選 古池小波 (*彙報欄) 六五〜六七

双柳園晚香宗匠選 函館新声社(内藤鳴雪翁選) 六七

暢神会(不白軒梅年君選) 天声会第一回互選結果報告 六七〜六八

信州自然会(春秋庵幹雄選・大坂馬仏君選・余興互選) 新声会の組織 六八〜六九

越後柿の実会(坂本四方太君選) 横濱の俳況(夜鼓調君選・咫尺齊君選・三杉庵選) 六九〜七〇

宗祇四百年忌 六月十四日の詠句 七〇

*風葉(一句) *竹嶼(三句) *紫明(一句) 七〇

*苔花(二句) *冬湖(二句) *麦人(五句) 七一

*南岳(一句) *紅葉(四句) *鏡花(一句) 七一

*西男(二句) *春葉(一句) 七一

若葉会 雀会月並例会 七一〜七二

千代田連（三顧堂語雪君選）

七二

和風緑野

尚土会

七二

俳諧修辭学（七）

一〇七

編輯雜録

（無署名）

七三

挿画 夏の朝（*画）

三

寄贈書目

七三〜七四

挿画 夏の夕（*画）

五

第七号募集俳句 題 昼寝、蓮、心太（一題二句宛都合六句を超

大淀三千風（三）

七〜一〇

ゆべからず）（天地人三光へ齋藤松洲先生画の扇地紙を呈す）・

挿画 秋草（*画）

八

余興 当季乱題（葉書投句）（無景物）・句合俳句募集 題

晚鴉点々
和漢学者の眼より見たる俳諧（三）

一一〜一四

露・第八号募集俳句題 桐一葉、虫、稲妻

（七四）

伊藤松宇 一一〜一四

俳声余興句合投吟用箋

（*頁数無）

（*俳句）
永機（一三句）・竹冷（二句）

〈広告〉「避暑之友 夏炉冬扇」俳声発行所

（*頁数無）

川村烏黒 一三〜一五

俳画募集 題 燈籠 金剛山房主人選

（*頁数無）

（*画）
山又山記（二）
市内十五句（*俳句）
松宇（八句）・無黄（七句）
樂屋もの語（八）
（*俳句）
無黄（六句）・松宇（八句）・在大坂猿男（六句）
独逸市中的音
募集俳画 題、燈籠 当選（*画）

竹嶼 一三

【第一卷第七号（明治卅四年八月二十日印刷発行）】

市内十五句（*俳句）
一五〜一六

〈広告〉「社会之敵 禮峰訳」東京堂

（*頁数無）

〈広告〉「中村春雨君新作 一条成美君画 無花果」・「坪内文学博士

松宇（八句）・無黄（七句）
樂屋もの語（八）
（*俳句）
無黄（六句）・松宇（八句）・在大坂猿男（六句）
独逸市中的音
募集俳画 題、燈籠 当選（*画）

関梅澤和軒君著 菅公論」・「薄田泣菫君著 満谷国四郎君

行子 一六

画 行く春」・「浩々歌客君著 下村為山君画 出門一笑」・

（*俳句）
無黄（六句）・松宇（八句）・在大坂猿男（六句）
独逸市中的音
募集俳画 題、燈籠 当選（*画）

「菊池幽芳君著 下村為山君画 よつちやん」

きの子 一七〜一九

〈写真〉西山宗因筆蹟・齋藤徳元筆蹟

（*頁数無）

（*頁数無）
月嶺 一七

(＊俳句)

残花(二句)・九華(五句)・竹嶼(五句)

一九

雪門月次俳諧歌仙(＊歌仙)

二〇

素白(六句)・尚古(六句)・字貫(六句)・雀志(三句)・

六花續粉

月庵知十宗匠判

五一～五四

秋興(五句)・釣雪(四句)・葵陽(三句)・梅年(二句)

夫婦噺

浪華 露舟 五四～五六

新撰俳諧百人一首(一六)

井上秋剣 二二～二六

募集俳画 題、燈籠 当選(＊画)

大洲 五五

募集俳画 題、燈籠 当選(＊画)

子松

二二

蚊遣草(＊俳句)

五六

鴻雁二声

菜窓無角・滝川愚仏

二六

中原清秀(九句)

＊無角(二句) ＊愚仏(二四句)

不完全なる記憶

月の宮人 五六～五七

二十日草(＊俳句)

二七

逍遙吟(＊俳句)

五七

秋剣(九句)・雀志(四句)

大西南水(六句)

笑話一束

松田竹嶼 二八～二九

俳諧虎之卷(二)

武子桂華 五八～五九

募集俳画 題、燈籠 当選(＊画)

蘆仙

二九

仮名なし三句(＊俳句)

五九

滄海拾珠

汗馬(二句)・雉子(二句)

題 昼寝・蓮・心太(＊選句)

湘村俳話

句沙彌投 五九～六〇

老鼠堂永機宗匠選

三〇～四〇

(＊独吟連句)

六〇

聽雨窓竹冷宗匠選

四〇～四六

福田汗馬(一四句)

挿画 燈籠(＊画)

齋藤松洲

三三

蝦夷祭

北海道 春舟生 六一

避暑地大坂在宝塚之写生(＊画)

十二才桜洲画

四五

(＊俳句)

湘村(四句)・旭桐(四句)・鶯里(二句) 六一～六二

余興(葉書投句) 混題(＊選句)

〈資料紹介〉「俳声」絵目次

一四九

急雨一過（葉書投書）（*投書九件）

六一〜六三

*柿紅（一句） *竹冷（二句）

六六〜六七

古池小波（*彙報欄）

各地俳況

盛岡の蕉談会（互選）

六八

秋田十寸穂吟社

六三

信州自然会支部壺井選（林希心君選）

六八

越後新声会第一回（竹嶼選・松宇選）

六三〜六四

通寺町勸業場燈籠句集（完花亭半翠君選・松田竹嶼選）

六八〜六九

千代田連弟六三回（三顧堂語雪君選・桜川居弦月君選）

六四

俳諧年表の編纂

六九

曙古池連（香蘭居清左君選）

六四〜六五

十千万堂大人の病簡

六九

若葉会

六五

俳藪の発刊

六九

函館新声社（内藤鳴雪翁選）

六五〜六六

雑誌半面

六九

七月廿八日の俳筵

六六

第八号募集俳句 題 桐一葉、虫、稲妻（二題二句づゝ）（天へ

六九

*紅葉（二句）

六六

は岡野知十先生著の晋其角華抱一の二部を地人へは其角一部を

*斜汀（二句）

六六

送亭す）・余興（無景・句相撲俳句募集・第九号募集俳句 題

*抱琴（二句）

六六

山（秋季）（各三光へは川村雨谷先生画の扇地紙を呈す）・余興

*梓石（二句）

六七

（葉書投句）当季混題・句相撲俳句募集題 川（冬季） 七〇

*拈華（二句）

六七

予告 俳声会発起人 七一

*松宇（二句）

七一

〈広告〉「藤島武二画 鳳晶子著 みだれ髪」東京新誌社 七一

*水月（二句）

七一

新刊寄贈書目 七二〜七二

*南甫（二句）

七二

〈広告〉「俳藪第二号目次 近刊」 七二

*秋郊（二句）

七二

俳声余興句合投吟用箋（*頁数無） 七二

*好月（二句）

七二

*迂外（二句）

七二

〈広告〉「避暑之友 夏炉冬扇 再版」俳声発行所 (*頁数無)

〈広告〉「車百合」金尾文淵堂・「小天地」金尾文淵堂 (*頁数無)

〈広告〉「曙」姫百合社 (*頁数無)

俳画募集 題 月 金剛三房主人選 (当選の分は本誌第八号に掲載し齋藤松洲先生画の扇地紙を呈す) (*頁数無)

【第一卷第八号 (明治卅四年九月二十日印刷発行)】

〈広告〉「俳声叢書 夏炉冬扇 再版」俳声発行所 (*頁数無)

〈広告〉「俳諧書類」博文館 (*頁数無)

〈写真〉新設上野原停車場・猿橋上流之水声 川喜多虚白君照写 (*頁数無)

和風緑野

俳諧修辞学 (八) 鶴澤四丁 一〇五

大淀三千風 (四) 久保天随 六〇一

募集画題 月 当選 (*画) 蕉雨 一三

晚鴉点々

新撰俳諧百人一首 (七) 井上秋剣 一二一七

募集画題 月 当選 (*画) 清泉 一三

市内十五句 (*俳句) 一七〇一八

〈資料紹介〉「俳声」総目次

無黄 (八句)・松宇 (七句)

髮山樵話 (二) 山猿子筆記 一八〇二〇

(*俳句) 二〇

永機 (七句)・知十 (三句)・残花 (四句)

山又山記 (二) 川村烏黒 二〇〇三二

*烏黒 (二七句)

二十十日 (*俳句) 二二

松宇 (十句)

子親子を訪ふ 角田竹冷 一三三

第一卷第七号表紙 (俳句文学館蔵)



*竹冷(二句) *子規(二二句)

募集画題 月 当選 (*画)

素洲

四二

雪月門次脇起俳諧之連歌 (*歌仙) 五世雪中 一三〇二四

募集画題 月 当選 (*画)

物外

四七

尚古(六句)・字貫(六句)・素白(六句)・雀志(五句)・

余興(葉書投句) 当季混題 (*選句)

四九〇五一

秋興(五句)・梅年(二二句)・葵陽(二二句)

川村烏黒宗匠選

四九〇五一

後座探題 (*俳句)

二四

六花續粉

梅年(二二句)・尚古(二二句)・秋興(二二句)・

江戸名所吟集(二)

中原清秀 五一〇五三

葵陽(二二句)・素白(二二句)・字貫(二二句)・

向島の初秋 (*俳句)

五三

雀志(二二句)

大西南水(二〇句)

俳諧楽屋ものがたり(九)

行々子 二五〇二六

棒十句 (*俳句)

五三〇五四

募集画題 月 当選 (*画)

廬洲

二五

塵山(一〇句)

(*俳句)

二六〇二七

句評問答一束

珠鶴庵

五四〇五六

愚仏(八句)・竹嶼(六句)・猿男(二〇句)

夏のかたみ (*俳句)

五七

滄海拾珠

中原清秀(一二句)

題 桐一葉・稲妻・虫 (*選句)

不完全な記憶を讀みて

梅井其芳

五七〇五八

滝川愚仏宗匠選

二七〇三三

募集画題 月 当選 (*画)

寿洞

五八

選句に就て愚仏先生の雁信

三四〇三五

通篇の連句 (*連句)

五九

太白堂桃年宗匠選

三五〇四〇

福田汗馬(八句)

募集画題 月 当選 (*画)

水棹

三七

寒蛩唧々(葉書投書) (*投書一二件)

五九〇六〇

句相撲 題 萩 (*句合)

四〇〇四八

温古奏園

森無黄宗匠判

四〇〇四八

蛙合せ(承前)

仙花判(無署名翻刻)

六一〇六三

古池小波（*彙報欄）

俳況

深川俳況（十千万堂紅葉宗匠選）

六四

上野水無月会

六四〇六五

越後新声会（岡野知十先生選・松田竹嶼選）

六五

若葉会

六五

信濃自然会（渡邊其鳳先生選）

六五〇六六

柿の実会

六六

落葉会

六六

函館新声社（内藤鳴雪翁選）

六六〇六八

募集画題 月（*画）

木村紫山

六七

菜窓無角君の帰京

六八

紫風会（雪中庵雀志君選）

六八

千代田連 第六十四回

六八

編輯室破窓の下より

竹嶼

六九

〈広告〉俳声会々則

俳声会

七〇

新刊寄贈書目

七一

〈広告〉日曜日雑誌を募集す・第九号分募集俳句 題 山（秋季）

（一人四句づ、）（各三光へは川村雨谷先生画の扇地紙を呈

す）・句合俳句募集 題 河或は水（冬季）・第十号分募集

俳句予告 題 時雨葉喰（一題二句宛）（各三光へは夏炬

冬扇一部づ、を呈す）・余興端書投句（当季混題）・句合俳

句募集 題 人（冬季）

七二

俳声余興句合投吟用箋

（*頁数無）

〈広告〉「書籍雑誌取次販売 開業広告」集成館・「半面」半面発行

所・「俳藪」晚鐘会・「白虹」素蛾文学会

（*頁数無）

〈広告〉「秋水」天声社・「懸賞俳句募集」実業通信社・「簡易複写イ

ンキ」中村屋書店

（*頁数無）

〈広告〉「社会之敵 皚峰訳」東京堂

（*頁数無）

俳画募集 第九号分 題 菊 第十号分 題 時雨金剛山房主人

選（秀逸に当選したる分には賞典として齋藤松洲先生画の扇地

紙を贈呈す）

（*頁数無）

【第一巻第九号（明治三十四年十月十九日印刷・明治三十四年十月二十日発行）】

〈広告〉「秀才文壇」文光堂・「俳海」俳海発行所・「簡易複写イン

キ」中村屋書店・「ゴム印」明進堂

（*頁数無）

〈広告〉「社会之敵 皚峰訳」東京堂

（*頁数無）

〈写真〉建部巢兆筆蹟・夏目成美筆蹟

（*頁数無）

晚鴉点々

俳諧修辭学 (九)

鶉澤四丁 一〇四

和漢学者の眼より見たる俳諧 (四)

伊藤松宇 四〇六

募集画題 菊 当選 秀逸 (*画)

素洲 五

星影 (*俳句)

六

永機 (二〇句)

随読随抄

魯庵生 七〇

挿画 秋 (*画)

齊藤松洲 九

秋影 (*俳句)

一〇〇

松宇 (二二句)・愚仏 (三句)・猿男 (五句)

石老山の記

久保天隨 一一〇

月影 (*俳句)

一二〇

無黄 (七句)・半翠 (九句)

新撰俳諧百人一首 (八)

井上秋劍 一三〇

募集画題 菊 当選 秀逸 (*画)

物外 一四

俳諧茶屋もの語 (十)

行々子 一八

挿画 菊

川村烏黒 一九

独逸市中の音 (第七号の続)

きの子 二〇

燈影 (*俳句)

二二

無角 (五句)・竹嶼 (七句)

蝦夷の月

福原雨六 五三〇

俳諧秋のこのごろ

四丁庵 二二〇

* 四丁 (一五句)

募集画題 菊 当選 秀逸 (*画)

清泉 二三

俳諧空談

城南隠士 二五〇

甲州猿橋三日旅 (上)

竹嶼生 二七〇

挿画 猿橋御苦勞双六 (*画)

齊藤松洲 (*頁数無)

滄海拾珠

句相撲 題 河或は水 (冬季) (*句合)

行司 伊藤松宇

三三〇

題 山 (秋季) (*選句)

京都 不識庵聴秋選

四三〇

選句に就て紅葉先生の書翰

尾崎紅葉 四六〇

投吟諸君へ申訳

(無署名) 四六〇

俳声同人選 (*選句)

四七〇

募集画題 菊 当選 (*画)

廬仙 四八〇

余興当季混題 (葉書投句) (*選句)

菜窓無角選

五一〇

六花續粉

句評問答一束 (つ、き)

珠鶴庵 五三〇

予の思ふところ(再)

須田子俊 五五〇五七

千代田連(三顧堂語雪選・対雪庵暉篋評)

六八

秋扇(*俳句)

五七

信州自然会

六八〇六九

中原清秀(一二三句)

出雲 乃東庵 五七〇五八

寄贈書目

七〇

俳界私録

武子桂華 五九〇六〇

〈広告〉俳声会々則

俳声会 七〇〇七一

俳諧虎之卷(二)

鳳苔 五九

〈広告〉日曜日雑記を募集す・第十号分募集俳句 題 時雨 葉喰

募集画題 菊 当選 秀逸(*画)

六二〇六三

(一題二句宛)(各三光へは夏炬冬扇つ、を呈す)・余興 端書投句(当季混題)・句合俳句募集 題 人(冬季)・第

日曜日雑記(*投稿短文)

六三〇六四

十一号分募集俳句 題 水仙、紙衣、年の暮又は行年(一題

久保天随園

六三〇六四

二句宛)(各三光へは夏炬冬扇一部宛進呈す既に此賞を受

黄菊白菊(葉書投書)(*投書一件)

六三〇六四

けられたる分には他の俳書を進呈す)・余興 端書投句

古池小波(*葉報欄)

六三〇六四

(当季混題)(用紙は葉書に限り一葉四句まで)・句合俳句

俳況

六五

題 顔(冬季) 七二

秋声会

六五

俳声余興句合投吟用箋 (*頁数無)

*鳥黒(六句)

*愚仏(二句)

*紅葉(四句)

〈広告〉「俳声叢書 夏炬冬扇 再版」俳声発行所

(*頁数無)

*四丁(二句)

*残花(三句)

*不曲(三句)

俳画募集 第十号分 題 時雨(用紙薄美濃大きさは本誌一頁以

(*頁数無)

*知十(四句)

*松宇(二句)

*猿男(二句)

下)・第十一号分 第大晦日(用紙及大きさは前例の通り) 金

(*頁数無)

*無黄(三句)

*黄雨(二句)

*竹冷(二句)

剛山房主人選(秀逸に当選したる分には賞典として齋藤松洲先

(*頁数無)

函館新声社(内藤鳴雪翁選)

六五〇六六

生画の扇地紙を贈呈す

若葉会

六六

秋田十寸穂吟社

六六〇六八

落葉集

六八

〈資料紹介〉「俳声」総目次

雀志(三句)・機一(三句)・竹嶼(五句)

隨讀隨抄

魯庵生 二五〇二六

滄海拾珠

句相撲 題 人(冬季) (*句合)

二七〇三八

行司 鶉澤四丁

霜葉 (*俳句)

五八

募集画題 時雨 当選 (*画)

大洲 三三三

露文(二句)・其芳(二句)・志慶(二句)・

俳声会第一回開会

(無署名) 三八

枯枝子(二句)・疎山(二句)・鶯堂(二句)

題 時雨・葉喰 (*選句)

俳界私録

乃東庵 五八〇六一

岡野知十選

三八〇四一

募集画題 時雨 当選 (*画)

月嶺 五九

其角堂機一選

四一〇四五

柴栗 (*俳句)

六一

葉書投句(当季混題) (*選句)

中原清秀(二〇句)

完花亭半翠選

四六〇四八

日曜記雜記 (*投稿短文)

題 山(秋季) 第九号分 (*選句)

四九〇五一

久保天隨閣

六二〇六六

十千万堂紅葉選

四九〇五一

募集画題 時雨 当選 (*画)

窓竹 六五

六花續粉

落葉飛來(葉書投書) (*投書九件)

六六〇六七

濤声

谷崎廬郷

五二〇五三

社告

社員一同敬白

六七

江戸名所吟集 二

中原清秀

五三〇五五

古池小波 (*彙報欄)

秋と冬 (*俳句)

五五

俳況

水巴(十句)

枯木庵觀菊俳席

六八〇六九

和蘭陀菊 (*俳句)

東風丸

五六

*松宇(四句)

*無黄(三句)

*不曲(二句)

*天随(四句) *鳥有(二句) *天香女(二句)

俳画募集 第十一号分 題大晦日 第二卷第一号 題 新年梅

*愚仏(二句) *かね子(二句) *黄雨(三句)

雪 金剛山房主人選(秀逸に当選したる分には賞典として齋藤

*竹嶼(三句) *烏黒(四句)

松洲先生画の扇地紙を贈呈す) (*頁数無)

函館新声社(内藤鳴雪翁選)

六八〜六九

若葉会(互選)

六九

信濃自然会

六九

吐虹会(角田竹冷先生選)

六九〜七〇

白毫会

七〇

新刊寄贈書目

七〇〜七一

俳声会々則

俳声会 七一〜七二

日曜日雑記を募集す・第十一号俳句募集 題 水仙、紙衣、年の

暮、又は行年(各三光へは夏炉冬扇一部宛を呈す)・端書投句

(当季混題)・句相撲 題 顔(冬季)(本号より五人抜の句相

撲とす)・第二卷第一号俳句募集 題 新年梅、羽子(各三光

へは松洲先生画の扇地紙を呈す)・端書投句(当季混題)・句相

撲 題 神(春季) (*頁数無)

〈広告〉「十五錢叢書 上野貞正君著 欧米政体通覽 井上秋剣君著

増補文字反古明治大諷刺」王道雜誌社 (*頁数無)

俳声余興句合投吟用箋 (*頁数無)

〈広告〉「俳海」俳海発行所・「秀才文壇」文光堂 (*頁数無)

【第一卷第十一号(明治三十四年十二月十九日印刷・明治三十四年十二月二十日発行)】

〈広告〉「俳声叢書 夏炉冬扇 三版」俳声発行所 (*頁数無)

〈広告〉「十五錢叢書 上野貞正君著 欧米政体通覽 井上秋剣君著

増補文字反古明治大諷刺」王道雜誌社 (*頁数無)

〈写真〉京都梅黄社時雨会の実況 不識庵聴秋君寄贈・

大和多武峯山中の実景 谷崎芦卿君照写寄贈 (*頁数無)

晚鴉点々

俳諧修辞字(十二) 鵜澤四丁 一〜二

俳諧連句 (無署名) 二〜三

叢声(*俳句) 三

愚仏(四句)・無黄(二二句)

和漢学者の眼より見たる俳諧(五) 伊藤松宇 四

素花(*俳句) 四

永機(一八句)

募集画題 大晦日 秀逸当選 (*画) 物外 五

山又山記(四) 川村烏黒 六〇八

*烏黒(二三句) *愚仏(三二句) 瀧川愚仏 二八〇

募集画題 大晦日 当選 (*画) 清泉 八

俳諧空談 承前 城南隠士 九〇二

募集画題 大晦日 当選 (*画) 水棹 一一

つらゝの床 (*歌仙) 松宇(二二句) 菜窓無角 三一〇

鳳羽(二八句)・黄雨(二八句) 井上秋剣 二一八

新撰俳諧百人一首(十) 南畝 一七

募集画題 大晦日 当選 (*画) 松田竹嶼 一八〇

甲州猿旅三日旅(中の続き) 夜寒之卷 (*歌仙) 二二〇

無黄(二八句)・松宇(二八句) 句中相撲五人抜 (*句合) 宏碧 三九

俳談 角田竹冷演述・若林中速記 二二五

募集画題 大晦日 秀逸 当選 (*画) 蘆洲 二三

霜声 (*俳句) 行司 森無黄 四七〇

無角(九句)・雀志(三句)・猿男(四句) 行々子 二六

俳諧茶屋もの語(十二) 竹嶼 二六〇

俳声の既往と将来 雪声 (*俳句) 二八

黄雨(六句)・竹嶼(七句) 鱗信 二八〇

募集画題 大晦日 当選 (*画) 古堂 二九

氷面鏡 (*俳句) 松宇(二二句) 三一

滄海拾珠 題 水仙・紙衣・年の暮 三五〇

森猿男選 雪中庵雀志選 大三十日 当選 (*画) 三七〇

句相撲五人抜 (*句合) 行司 森無黄 四七〇

第二卷第一号、巖谷小波「異郷の秋思」挿絵（梶田半古画）（俳句文学館蔵）



白毫会第三回

六七

千代田連第六十六回（三顧堂語雪君選）

六七〜六八

羽前鶴岡の俳況

六八

青春会

六八

甲州鴉会（雪中庵雀志君選・松田竹嶼選）

六八〜七〇

募集画題 大晦日 当選（*画）

月嶺 六九

函館青燕会

七〇

編輯室破窓の下より

（無署名） 七〇

俳声会々則

俳声会 七一〜七二

寄贈書目

七二

三日間雑誌を募集す・第二卷一号俳句募集 題 新年梅、羽子

（各三光へは松洲画伯筆の扇地紙を呈す）・葉書投句（春季）

（二葉に四句宛）・句相撲五人抜 題 神（春季）・第二卷第二

号俳句募集 題 烟（春季）・端書投句 春季混題（二葉四句

宛）・句相撲五人抜 後一（*広告頁）

〈広告〉「再版！ 仇浪」文祿堂

後二（*広告頁）

俳声余興句合投吟用箋

後三（*広告頁）

〈広告〉「句集 胡沙笛」白鳩社・「芭蕉新聞」芭蕉新聞社・「少詩

人」東京新誌社

後四（*広告頁）

俳画募集 第二卷第一号分 題 新年梅、雪（用紙薄美濃にて大

六七

若葉会（互選）

六七

如水会（伊藤松宇先生選）

六六〜六七

俳況

古池小波（*彙報欄）

暁月霜林（端書投書）（*投書七件）

六五〜六六

*角田竹冷選（*選句）

*伊藤松宇選（*選句）

*竹嶼（四句） *竹冷（四句）

*風香（三句） *静堂（二句） *白古（三句）

*白堂（二句） *可爾（二句） *草萊（二句）

信濃自然会（竹嶼選）

六七

きさは堅五寸横三寸迄・第二卷第一号 題 雪解(大きさ前
同断) 金剛山房主人選(秀逸に当選したる分には賞典として
齋藤松洲先生画の扇地紙を贈呈す) (*頁数無)

【第二卷第一号(明治三十五年一月十九日印刷・明治三十五年二月
十日発行)】

〈口絵〉虎 齋藤松洲

(*頁数無)

俳談

角田竹冷口演・若林中速記

一〇〇九

俳句に枕詞を用ふるの例

森無黄 一〇〇一五

素葩数枝 (*俳句)

一六

愚仏(三二句)・猿男(四句)・黄雨(六句)・

竹嶼(六句)・竹冷(二句)

(*画)

物外 (*頁数無)

和漢学者の眼より見たる俳諧(六)

伊藤松宇 一七〇二二

異郷の秋思

在伯林小波作句・川村黄雨評

二二〇二四

*小波(二六句)

俳諧な、くさ

四丁庵 二四〇二八

選句に就て森猿男先生よりの書翰

猿男 二八〇三二

募集画題 雪 当選 (*画)

木枯 二九

韶光 (*俳句)

三一

永機(五句)・雀志(三句)・芦郷(三句)・

松宇(六句)・無黄(四句)・紅葉(二句)

俳諧空談

城南隱士 三三〇三四

俳諧楽屋もの語(十三)

行々子 三五

新撰俳諧百人一首(十二)

井上秋剣 三六〇四四

(*画)

廬洲 (*頁数無)

幽々(第一信)

齋藤松洲 四四〇四八

新年詞友帖

松田竹嶼 四八〇四九

*西男(二句)

*清狂(二句)

*雪簑人(二句)

*鐵洲(二句)

*物外(二句)

*青瓢(三句)

*怡亭(二句)

*十且子(二句)

*珠郎(二句)

*素岳(二句)

*蕉雨(二句)

*閑幽(二句)

句相撲 題 神(春季) (*句合)

行司 伊藤松宇

五〇〇六四

募集画題 雪 当選 秀逸 (*画)

古保 五五

謹賀新年 (*俳句)

六一

紅葉(二句)・無角(二句)・四丁(二句)・

黄雨(二句)・松宇(二句)・愚仏(二句)・

竹嶼(二句)・芦郷(二句)・猿男(二句)・

竹冷（一句）・無黄（一句）

編輯室破窓の下より

（無署名）

一（*広告頁）

募集俳句 題 新年梅・羽子（*選句）

俳声会々則

俳声会 一〇二（*広告頁）

聴雨窓竹冷選

六四〇六八

新刊寄贈書目

二〇三（*広告頁）

募集画題 雪 当選（*画）

風吾

六七

〈広告〉雅号起因録を募集す・第二卷第二号分俳句募集 題 烟

京都 不識庵聴秋選

六八〇七一

（春季）（一人四句迄）（天へは齋藤松洲先生の扇地紙を呈し地人へは夏炉冬扇を呈す）・葉書投句 春季混題（一

葉書投句（*選句）

七二〇七四

枚四句宛）・句相撲 題 橋（春季）・第二卷第三号分俳句

（冬季混題前号分）俳声同人選

七四〇七六

募集 題 村（春季）（一人四句宛）（各天位へは齋藤松洲

春季混題（葉書）俳声同人選

輦齊

七三

先生画の扇地紙を呈し地人へは夏炉冬扇を呈す）・端書投

募集画題 新年梅 当選（*画）

七六〇七八

句 春季混題（一葉四句宛）・句相撲 題 風（春季）

三ヶ日雑記（*投稿短文）

七八〇七九

四（*広告頁）

井上秋剣閣

七九〇八〇

〈広告〉「絵入月刊文学美術雑誌 明星」・「投稿募集 少詩人」東京

鶯語嬌々（端書投書）（*投書一件）

八〇

新誌社 五（*広告頁）

俳況（*彙報欄）

八一

〈広告〉俳句募集（小石川江戸川行燈）・「新著月刊」新著月刊発行

若葉会（互選）

八二

所 六（*広告頁）

青梅案山子吟社（四丁先生選）

八三

俳声余興句合投吟用箋

吐虹会第六回（角田竹冷先生選）

八四

〈広告〉「俳諧専門 芭蕉新聞」芭蕉新聞社 八（*広告頁）

神戸水明会第二回小集

八五

俳画募集 第二卷第二号分 題 雪解（用紙薄美濃にて用紙大き

一月十二日小集

八六

さ本誌一頁大迄）・第二卷第三号分 題 初午（大きさと前同断）

沼津の俳況

八七

金剛山房主人選（秀逸に当選したる分には賞として齋藤松洲先

俳声会開会報告

俳声会

八二

生画の扇地紙を贈呈す

(＊頁数無)

【第二卷第二号(明治三十五年二月十九日印刷・明治三十五年二月二十日発行)】

〈広告〉 祝句募集(角田竹冷選)・十千万堂紅葉「請寿句文」

前の一(＊広告頁)

〈広告〉 「女芸」新進館・山田三子編「蕪村俳句全集」・佐藤紅緑編

「俳句小史」・佐藤紅緑編「滑稽俳句集」・高浜虚子著「俳句入門」・大塚甲子編「俳句選」内外出版協会

前の一(＊広告頁)

〈写真〉 俳声会第二回於上野不忍池畔無極亭閉会実況 上野広小路

吉川写真館照写

(＊頁数無)

俳談

角田竹冷演述・若林中速記

一〇三

第二回俳声会の記

蓮花秋剣

四〇一

＊幽山(三句) ＊久宝(三句) ＊春水(二句)

＊露竹(二句) ＊如竹(二句) ＊山閑(二句)

＊物外(四句) ＊長秋(三句) ＊五風(三句)

＊草菜(四句) ＊下人(二句) ＊珠郎(五句)

＊素水(四句) ＊米零(三句) ＊丹鶴(三句)

〈資料紹介〉「俳声」総目次

＊知白(二句) ＊可蕭(二句) ＊桜月(三句)

＊愛桜(四句) ＊寛水(二句) ＊一声(二句)

＊好月(三句) ＊蓼陵(三句) ＊尺予(三句)

＊英川(二句) ＊風香(六句) ＊江鴉(二句)

＊清泉(三句) ＊十且子(二句) ＊知笑(二句)

＊和声(二句) ＊楓里(三句) ＊二葉(二句)

＊岩山(二句) ＊清秀(四句) ＊春郊(五句)

＊奇山(二句) ＊調布(二句) ＊松宇(三句)

＊秋香(二句) ＊臥泉(二句) ＊白堂(二句)

＊枕水(二句) ＊湖月(二句) ＊秀雅(二句)

＊可月(二句) ＊ゆきえ(二句) ＊白雉(二句)

＊古保(二句) ＊金巖(二句) ＊露文(二句)

＊青瓢(二句) ＊無黄(二句) ＊象外(二句)

髭山樵話

山猿子筆記 一二〇一七

俳諧写生帖

四丁庵 一八〇一七

＊四丁(八句)

杏艶桃嬌(＊俳句)

一三二

愚仏(二五句)・松宇(二句)・無黄(一五句)・

竹冷(三句)

盗句と暗号とを論ず

明法博士 一三三〇二九

〔*俳句〕

二九

俳況

竹冷（七句）

若葉会（五選）

七〇

句相撲 題 風（春季）（*句合）

如水会（伊藤松宇先生選）

七〇〜七一

行司 鶉澤四丁

青春会

七一

募集画題 雪解 秀逸当選（*画）

洗美（*頁数無）

青梅家山子吟社

七一

募集画題 雪解 当選（*画）

宏碧

神戸水明吟社第四回小集

七一

募集画題 雪解 当選（*画）

閑哉

白毫社（伊藤松宇先生選）

七一〜七二

滄海拾珠 題 烟（春季）（*選句）

四二

第七回吐虹会（角田竹冷先生選）

七二

老鼠堂永機選

四七〜五五

吐虹会第七回席上俳句（角田竹冷先生選）

七二

募集画題 雪解 当選（*画）

木枯

五一

鞍馬会（老鼠堂永機宗匠選）

七二

無彩居無黃選

五五〜六二

信州自然会支部

七二

募集画題 雪解 当選（*画）

黙蛙

五九

編輯室の破几にりて

（無署名）

後の一（*広告頁）

葉書投句（春季混題）（*選句）

俳声会々則

俳声会

後の二〜三（*広告頁）

俳声同人選

六三〜六五

新刊寄贈書目

後の三（*広告頁）

雅号起因録に就て

竹嶼生

六六

（春季）雅号起因録を募集す・第二卷第三号分俳句募集 題 村

雅号起因録

六六〜六八

（春季）（一人四句宛（各天位へは齋藤松洲先生画の扇地紙

武津禾丁・相磯青瓢・とみを・白田亜浪・如菊・

を呈し地人へは夏炉冬扇を呈す）・端書投句 春季混題

文廻家可肅・鶉山居抱魚・春舟・赤松枕水・鈴木枕水・

（二葉四句宛）・句相撲・第二卷四号分 題 足（春季）

青草・内藤訥堂・木村露文

（一人四句宛）（各三光へは一葉成美君筆画葉書を呈す）・

細草新花（端書投書）（*投書七件）

六九〜七〇

葉書投句 春季混題（一枚四句宛）・句相撲題 手（春

季・俳句募集（小石川江戸川行燈） 後の四（*広告頁）

俳声余興句合投吟用箋 （*頁数無）

〈広告〉「文学雜誌 文海」交友会・「二葉」二葉会

後の六（*広告頁）

俳画募集 第二卷第三号分 題 初午（用紙薄美濃にて大きさと本

誌一頁大迄）・第二卷第四号分 題 端午（大きさと前同断） 金

剛山房主人選秀逸に当選したる分には賞典として齋藤松洲先生

画の扇地紙を贈呈す （*頁数無）

【第二卷三号（明治三十五年三月十九日印刷・明治三十五年三月二

十日発行）】

〈広告〉「俳諧書類」博文館 前の一（*広告頁）

〈広告〉「月刊芸雑誌 小柴舟」・長谷川壽涯作 丹羽黙仙画「詩

集 おぼろ舟」駸々堂 前の一（*広告頁）

〈写真〉其角風雪筆蹟絵表装二幅対（聴雨窓竹冷先生藏幅）

（*頁数無）

俳談（四） 角田竹冷演述・若林社中速記 一〜五

和漢学者の眼より見たる俳諧（承前） 伊藤松宇 五〜一一

春遅柳暗（*俳句） 一一二

愚仏（二三句）・黄雨（六句）・竹嶼（八句）・

無黄（四句）・松宇（四句）・竹冷（三句）

芝居の脚本に上ほしたる俳人

幽々（画日記） 第二信

新撰俳諧百人一首（十二）

落花芳草（*俳句）

永機（八句）・雪人（二句）・天随（六句）・

野老（五句）・九華（八句）・竹嶼（二句）・

小波（二句）・柳浪（二句）・思案（二句）・

紅葉（二句）

雪人（三句）・松宇（三句）（*連句）

俳諧楽屋ものがたり（十四）

句相撲 題 風（春季）（*句合）

判者 森無黄

募集画題 初午 当選（*画）

募集画題 初午 秀逸（*画）

滄海拾珠 募集俳句 題 村（春季）（*選句）

伊藤松宇選

募集画題 初午 当選（*画）

川村黄雨選

松田竹嶼 一三〜一六

齊藤松洲 一七〜二一

井上秋劍 二二〜二五

二六

募集画題 初午 当選 (*画) 松風 六三

募集画題 初午 当選 (*画) 幾六 六九

葉書投句 春季混題 (*選句)

根なし草第四集 青春会

俳声同人選 七〇〜七二

新花会

雨滴 (*俳句) 七二

函館沐猴舎

半仙 (四句)・疎山 (三句) 七三

二葉会 鶴岡俳団の革新

十句集 筑波会 (*俳句) 七三

編輯室より・俳声会開会報告 俳声会

五丈原 (二〇句)・枯雪 (二〇句)・花心 (二〇句)・

俳声会々則 俳声会

可拙 (一〇句)・無角 (一〇句) 七四〜七六

俳声会々則 後の一〜二 (*広告頁)

雅号起因録 七四〜七六

新刊寄贈書目 後の二〜三 (*広告頁)

田中如幻・藤堂寒布・萩原愛桜・近藤幽山・広島舜花・

〈広告〉雅号起因録を募集す・第二卷第四号分俳句募集 題 足

白雉・宮崎千之・水野象兒・植田卜蛙・大西南水

(春季) (一人四句宛) (各三光へは一條成美君筆画葉書一

百花繚乱 (葉書投書) (*投書七件) 七六〜七七

組宛を呈す)・葉書投句 春季混題 (一枚四句宛)・句相撲

俳況 七六〜七七

題 手 (春季)・第二卷五号分 題 乗物 (自動車、馬車、

青梅案山子吟社 (鵜澤四丁先生選) 七七

駕籠、人力車等の類 春季)・葉書投句 春季随意・句相

吐虹会第八回句集 (角田竹冷先生選) 七七〜七八

撲 題僧 (春季)・端書投書を募集す 後の三 (*広告頁)

若葉会 (互選) 七八

〈広告〉「青年文学美術雑誌 白虹」白虹社・「枕詞」俳声発行所

白毫会第六回 (角田竹冷先生選) 七八

後の四 (*広告頁)

如水会 (伊藤松宇先生選) 七八

俳声余興句合投吟用箋

神戸水明吟社第五回小集 七九

〈広告〉「女界」白鳳社

後の六 (*広告頁)

(*頁数無)

俳画募集 第二卷第四号分 題 春野(用紙薄美濃にて大きき本

誌一頁大迄)・第二卷第五号分 題 端午(大きき前同断) 金

剛山房主人選 秀逸に当選したる分には賞典として齋藤松洲先
生画の扇地紙を贈呈す) (*頁数無)

【第二卷四号(明治三十五年四月廿四日印刷・明治三十五年四月廿

五日発行)】

〈広告〉「少詩人」俳声社 前の一(*広告頁)

〈広告〉「月刊芸雑誌 小柴舟」・長谷川濤涯作 丹羽黙仙画「詩

集 おぼろ舟」駸々堂 前の二(*広告頁)

〈写真〉俳声会催江戸河畔掛行燈之実景 会員露竹君照写

俳談(五) 角田竹冷演述・若林中速記 一〜四 (*頁数無)

江戸河畔掛燈籠の記 松田竹嶼 五〜一三

*尾崎紅葉先生選 (*選句)

*伊藤松宇先生選 (*選句)

*森無黄先生選 (*選句)

*角田竹冷先生選 (*選句)

俳声会観桜俳筵の記

松田竹嶼 一四〜一九

於当日梅の家(*画) 素洲画 一四〜一五

*黄雨(二句) *天随(四句) *秋剣(二句)

*可肅(二句) *蓼陵(三句) *雨六(三句)

*素水(二句) *幽山(二句) *春郊(二句)

*紫竹(二句) *豊雅(二句) *喬嶽(二句)

*楓里(二句) *秋暁(二句) *愛桜(二句)

*草萊(二句) *二洲(二句) *知白(二句)

*松郷(二句) *古保(二句) *米零(二句)

*竹荘(二句) *秋光(二句) *雪山(二句)

*二葉(二句) *可楽(二句) *麈山(三句)

*竹嶼(三句) *無黄(三句)

傷春集(*俳句) 無黄(八句)・愚仏(五句)・松宇(七句)・

烏黒(八句)・竹冷(四句)

西眼に映じたる俳諧 鵜澤四丁 二二〜二六

(*俳句) 竹冷(三句) 二六

幽々(画日記) 第三信 齋藤松洲 二七

新撰俳諧百人一首(十三) 井上秋剣 二八〜三三

落花録(*俳句) 三三

水機 (五句)・雪人 (二句)・南水 (三句)・

風香 (三句)・麈山 (二句)・草萊 (三句)・

さかえ (二句)・好月 (二句)・雲外 (二句)・

香村 (二句)・山閑 (二句)・幽山 (二句)・

青瓢 (一〇句)

募集画題 春野 秀逸当選 (*画)

俳諧楽屋物語

俳声会例会広告

赤毛布

募集画題 春野 当選 (*画)

募集俳句 題 足 (春季)

鵜澤四丁選

募集画題 春野 当選 (*画)

選句に就て紅葉先生よりの来書

俳句相撲 題 手 (*句合)

行司 伊藤松宇

募集画題 春野 当選 (*画)

(*画) 文章筆蹟

雅号起因録

飯原透声女・新田二洲・植松聴雨・千葉木舟・鈴木範作・

成嶋杜有・齊藤香村

葉書投句 (春季混題) (*選句)

俳声同人選

はがき投書 (*投書二二件)

俳況 (*彙報欄)

鞍馬会第五回 (角田竹冷先生選)

同第六回 (伊藤松宇先生選・川村黃雨先生選)

案山子吟社句集 (鵜澤四丁先生選)

千葉あなめ会 (瀧川愚仏先生選)

千代田会互選集

第九回吐虹会 (角田竹冷先生選)

同会席上俳句 (角田竹冷先生選)

神戸水明吟社第六回小集

新花会第二回例会 (互選)

新花会第三例会 (互選)

花月会第拾式回小集

竹声会設立

聴雨窓俳席

若葉会 (互選)

牛天神奉燈句集

七二〇七五

七五〇七七

七七

七七

七七〇七八

七八

七八

七八

七八〇七九

七九

七九

七九

七九〇八〇

八〇

八〇

八〇

八〇

編輯室より (無署名) 後の一 (*広告頁)

俳声会々則 俳声会 後の一、二 (*広告頁)

新刊寄贈書目 後の二、三 (*広告頁)

第二卷第五号分俳句募集 第 乗物 (自動車、馬車、駕籠、舟の

類 春季)・葉書投句・句相撲 題 僧 (春季)・第二卷第六号

募集俳句 題人 (男女或は人名にてもよし) 夏季)・葉書投句

夏季混題・句相撲 題 空 (夏季)・持句起因録募集

後の三 (*広告頁)

〈広告〉「壽々夢詞」壽々夢詞會・「枕詞」俳声發行所

後の四 (*広告頁)

俳声余興句合投吟用箋 (無署名)

〈広告〉「女芸」新進館・「佐藤紅緑新著 俳句小史」内外出版協會

後の六 (*広告頁)

俳画募集 第二卷第五号分 題 端午 (用紙薄美濃にて大きさと本

誌一頁大迄)・第二卷第六号分 題 夏季随意 (大きさと前同断)

金剛山房主人選 秀逸に当選したる分には賞典として齋藤松洲

先生画の扇地紙を贈呈す (*頁数無)

【第二卷第五号 (明治三十五年五月廿四日印刷・明治三十五年五月廿五日発行)】

〈写真〉次郎兵衛筆蹟

〈広告〉「夏炉冬扇 第三版」俳声發行所・「枕詞」俳声發行所

前の二 (*広告頁)

〈広告〉「月刊文芸雜誌 文芸」駿々堂

俳談 (六) 角田竹冷演述・若林社中速記 一、四

新撰俳諧百人一首 (十四) 井上秋剣 五、一

春秋雜詠 (*俳句) 愚仏 (一四句)・松宇 (三句)・竹嶼 (八句)・

猿男 (三句)・野老 (二二句)・無黄 (四句)・

竹冷 (五句)

俳諧楽屋もの語

俳句の暗号 行々子 一三、一四

募集画題 端午 当選 (*画) 松田竹嶼 一五、一七

西征漫吟 (*俳句) 松風 一六

無黄 (四七句) 旧竹 一九、二〇

俳人の墳墓

募集俳句 題 乗物 (春季) (*選句)

先生画の扇地紙を贈呈す (*頁数無)

瀧川愚仏選

二〇〇〇

葉書投句 題 春季混題 (*選句)

森無黄選

三〇〇〇

俳声同人選

六七〇

募集画題 端午 当選 (*画)

厚生堂

二一〇〇

俳声会例会広告

(無署名)

六九〇

募集画題 端午 当選 (*画)

秋琴

二二〇〇

俳況

募集画題 端午 秀逸当選 (*画)

螢子

二三〇〇

川上三暎君壽親祝賀句集 (角田竹冷先生選)

七〇〇

句相撲 題 僧 (春季) (*句合)

三三〇〇

秋声会小集

七〇〇

判者 川邨黄雨

四一〇〇

*無黄 (五句)

*無雨 (五句)

*竹嶼 (五句)

七一〇

行司 鵜澤四丁

五四〇〇

*深谷 (四句)

*松宇 (六句)

*竹冷 (五句)

七二〇

詞友吟 (*俳句)

六四〇〇

俳声会小集

七二〇

湘南 (五句)・山閑 (二句)・四男 (二句)・

小石川權花庵小集

七二〇

紫竹 (二句)・哑然 (二句)・塵山 (二句)・

第十回吐虹会句集 (角田竹冷先生選)

七二〇

藤陰 (二句)・鶴堂 (二句)・二洲 (二句)・

新花会

七二〇

義丈 (二句)・雲外 (二句)・猿馬 (二句)・

小石川牛天神奉燈句集 (尾崎紅葉先生選)

七二〇

甲東 (二句)・草萊 (二句)・清秀 (二句)・

竹声会第一回 (松田竹嶼選)

七三〇

迂外 (二句)・雉子 (二句)・雨六 (二句)・

山彦会第二回 (松田竹嶼選)

七三〇

香村 (二句)・紅雨 (二句)・風香 (二句)・

伊豆下河津蛙声会第三回集 (松田竹嶼選)

七三〇

巴藤 (三句)・望東 (二句)・松郷 (二句)・

如水会 (伊藤松宇先生選)

七三〇

露竹 (二句)・米雫 (二句)・斯光 (二句)・

青梅案山子会吟社句集 (鵜澤四丁先生選)

七四〇

幽山 (二句)

神戶水明吟社第七回句報

七四〇

はがき投書 (*投書九件)

六五〇

若葉会

七五〇

顧蘇吟社互選集

七五

齋藤松洲先生画の扇地紙を贈呈す

(*頁數無)

筆記雜誌、界第一回(雲操居松宇先生選)

七五

千代田会互選集

七五

本誌選刊の御断り

(無署名) 七六

俳声会々則

俳声会 後の一(*広告頁)

俳声会同人消息

(無署名) 後の一~二(*広告頁)

新刊寄贈書目

後の二(*広告頁)

第二卷第六号募集句 題 人(男女或は人名にてもよし)(夏

季)・葉書投句 夏季混題・句相撲 題 空(夏季)・第二卷第

七号募集俳句題 燈(夏季)

題)・句相撲題雨(夏季)・持句起因録募集・民声新報所載俳

句募集 題 当季随意 後の三(*広告頁)

〈広告〉「同志文学」同志文学社・「むさしの」東洋文学会・「左久

良」軍人文学社 後の四(*広告頁)

俳声余興句合投吟用箋 (*頁數無)

〈広告〉「近江かぶら」近江吟社・「俳諧妙音」松吟会・「文学雜誌

玄声」玄声社 後の六(*広告頁)

俳画募集 第二卷第七号分 題 夏季随意(用紙薄美濃にて大き

さ本誌一頁大迄)・第二卷第八号分 題 秋季随意(大きさを前

同断) 金剛山房主人選 秀逸に当選したる分には賞典として

〈資料紹介〉「俳声」総目次

【第二卷第六号(明治三十五年七月三十日印刷・明治三十五年七月
卅一日発行)】

〈広告〉「日英同盟記念懸賞俳句募集」

前の一(*広告頁)

〈広告〉「月刊文芸雜誌 文芸」駁々堂

前の二(*広告頁)

俳声第二卷第六号附録「正誤」

(*頁數無)

〈口絵〉(*無題)

齊藤松洲(*頁數無)

俳諧枕詞募集

催主 無黃 一~三

秋声会小集 (*俳句)

三

竹嶼(五句)・愚仏(四句)・松宇(四句)・

無黃(五句)・素竹(二句)・黃雨(二句)・

鳥黒(二句)

新撰俳諧百人一首(十五)

井上秋劍 四~八

即法話 (*俳句)

八

愚仏(二七句)

俳諧楽屋物語

行々子 九

俳声会例会報告

(無署名) 九

俳諧去年の夏

四丁庵 一〇~一二

*四丁(六句)

俳諧空談

城南隱士

一二〜一三

句相撲江戸力士本年上半年取表

鶴堂

一四〜二五

秋声会七月小集の記

茶毘庵

二五〜二九

*鳥黒(八句)

*竹嶼(八句)

*不曲(八句)

竹声会第二回(松田竹嶼選・川村鳥黒先生選)

五八〜五九

*無黄(八句)

*松宇(八句)

*残花(八句)

新花会

五九〜六〇

*素竹(八句)

*黄雨(八句)

千代田会互選集

六〇

募集画題

夏季

乱題 当選 (*画)

厚生堂

二六

願蘇吟社

六〇〜六一

募集俳句 題人(夏季) (*選句)

青梅案山子吟社(四丁先生選)

六一

伊藤松宇選

二九〜三一

神戸水明吟社第拾回

六一

募集画題

夏季乱題

当選 (*画)

廬仙

三一

青春会

六一

俳句相撲 題空(夏季) (*句合)

竹馬会七夕祭(伊藤松宇先生選)

六一〜六二

判者 無黄

三二〜四三

吐虹会第十一回(森無黄先生選)

六二

行司 井上秋剣

四三〜五二

俳筵即吟(松田竹嶼選)

六二〜六三

募集画題

夏季乱題

秀逸当選 (*画)

頓作

(*頁数無)

うつ蟬吟社第一回

六三

募集画題

夏季乱題

当選 (*画)

小蟹

四二

豊社社第一次会

六三

葉書投句 題 夏季混題 (*選句)

祝賀俳筵

六三

俳声同人選

五三〜五五

秋声会小集

六三

社告

(無署名)

五五

編輯室より

松田竹嶼 六四〜六六

葉書投書 (*投書一〇件)

五六〜五七

俳声会々則

俳声会 後の一 (*広告頁)

新刊寄贈書目

後の二（*広告頁）

第二卷第七号募集句 題 燈（夏季）（一人四句宛）・葉書投句

夏季混題（一枚四句宛を記し一人何枚にても差支なし）・句相

撲 題 雨（夏季）・第二卷第八号募集俳句 題 雁（二人四

句宛）・葉書投句 題 秋季随意（一葉四句宛）・句相撲 題

新酒或は濁酒・持句起因録募集 後の三（*広告頁）

〈広告〉「文学雑誌 文海」交文会・「俳諧雑誌 妙音」松吟会・「東

海第一文学雑誌 壽々夢詞臨時増刊青すだれ」壽々夢詞会

俳声余興句合投吟用箋

後の四（*広告頁）

（*頁数無）

〈広告〉「台湾文芸」台湾文芸社・「同志文学」同志文学社

後の六（*広告頁）

俳画募集 第二卷第七号分 題 夏季随意（用紙薄美濃にて大き

さ本誌一頁大迄）・第二卷第八号分 題 秋季随意（大きさと前

同断）金剛山房主人選 秀逸に当選したる分には賞典として

齋藤松洲先生画の扇地紙を贈呈す（*頁数無）

【第二卷七号（明治三十五年九月三十日印刷・明治三十五年十月一日発行）】

〈広告〉「枕詞俳句募集」・「絵葉書倶楽部」 前の一（*広告頁）

〈広告〉「月刊雑誌 文芸」駸々堂 前の二（*広告頁）

〈口絵〉「芭蕉翁画像」齊藤松洲・「芭蕉翁画像募集」松田竹嶼（*

募集文）（*頁数無）

題 燈（夏季）（*選句）

森猿男選 一

川村黄雨選 一

森猿男選 一

川村黄雨選 一

募集画 夏季雜題 当選（*画） 羅漢 七

俳句相撲 題 雨（夏季）（*句合） 八〇二〇

判者 四丁 二〇〇三四

俳声同人判 山中古洞 一四

納涼（*画） 池田物外 二七

募集画 夏季雜題 当選（*画） 三四

王貞白六言一絶を句頭に排して二十四句を試む（*俳句） 三四

黄雨（二四句）

葉書投句 題 夏季混題 (*選句)

(*俳句)

六一

俳声同人選

三五〜三七

募集画 秋季雜意隨 秀逸 (*画)

須藤寿洞 (*頁數無)

作句起因録

六二〜六五

募集画 夏季雜題 当選 (*画)

松井清泉 三七

河内幸水・相磯青瓢・湖月・春人・木村露文・関口のお子・

俳諧空談

城北隠士 三八〜四〇

村鳥久香

俳声会例会報告

(無署名) 四〇

社告

(無署名)

六五

俳諧楽屋物語

行々子 四一〜四二

葉書投書 (*投書九件)

六五〜六六

俳人の墳墓 (二)

林旧竹 四二〜四三

(*俳句)

六六

竹冷酔月当選賀筵の記

松田竹嶼 四四〜四六

竹嶼 (五句)

正岡子規子逝く

竹冷 四七

俳況 (*彙報欄)

*竹冷 (二句)

俳声会小集

六七

新撰俳諧百人一首 (一六)

井上秋劍 四七〜五一

竹声会第四回 (瀧川愚仏先生選・松田竹嶼選)

六七

北総紀行 (上)

森無黄 五一〜五九

白毫会第八回句集 (互選)

六七〜六八

*無黄 (二四句) *愚仏 (六句) *黄雨 (六句)

竹声会第五回 (四丁先生選)

六八

*鳥黒 (二二句) *雨石 (二二句)

顧蘇吟社

六八

(*俳句)

五九

千代田会互選集

六八〜六九

松宇 (二句)

松田竹嶼 五九〜六一

丹波柏原観月会 (竹嶼選)

六九

秋声会八月小集

松田竹嶼 五九〜六一

上州富岡町山彦会 (竹嶼選)

六九

*松宇 (三句) *無黄 (二二句) *愚仏 (一句)

螢雪会席上俳句 (無黄先生選)

六九〜七〇

*竹嶼 (二句)

案山子吟社 (四丁先生選)

七〇

案山子吟社第八回句集(四丁先生選)

七〇

俳画募集 第二卷第八号分 題 秋季随意(用紙薄美濃にて大き

案山子吟社小集(四丁先生判)

七〇

さ本誌一頁大迄)・第二卷第九号分 題 馬鹿者(大きき前同

新花会第六回

七一

断) 金剛山房主人選秀逸に当選したる分には賞典として齋藤

若葉会(互選)

七一

松洲先生画の扇地紙を贈呈す) (*頁数無)

若葉会即吟(伊藤松宇先生選)

七一

春秋会

七一

【第二卷八号(明治三十五年十二月九日印刷・明治三十五年十二月十日発行)】

青葉会

七一

岩谷小波君の帰朝

七一

編輯室より

七一

俳声会々則

七一

(無署名) 後の一(*広告頁) 務所・収芳第一卷懸賞募集 収芳会」収芳会事

新刊寄贈書目 後の二(*広告頁) <廣告>「懸賞小説募集 文芸」駸々堂 前の二(*広告頁)

第二卷第八号募集俳句 題 雁(二人四句宛)・葉書投句 題 <口絵>(*無題) 齊藤松州 (*頁数無)

秋季随意(一枚に四句を認むべし)・句相撲 題 新酒或は濁 句合 題 濁酒又は新酒(*句合)

酒・第二卷第九号募集俳句 題 霜又は雪・葉書投句 題 冬 行司 川邨黄雨

季随意(一枚四句宛)・句相撲 題 声又は音(冬季) 無黄判

<廣告>「輪友」輪友社 後の三(*広告頁) 募集画当選 案山子(*画) 井上芦仙 九

俳声余興句合投吟用箋 後の四(*広告頁) (*俳句) 竹冷(五句) 角田竹冷演述・若林中速記 一九一三二

<廣告>「俳諧雜誌 妙音」松吟社、「こほれ梅」関西青年会・社告 後の六(*広告頁) 募集画当選 秋晴(*画) 壽洞 二〇

<資料紹介>「俳声」総目次

枯木庵即興 (*俳句) 二二

愚仏 (二句)・黄雨 (二句)・松宇 (二句)・

無黄 (二句)・烏黒 (二句)

新選俳諧百人一首 (二七) 井上秋剣 二三〜二五

(*俳句) 二五

竹嶼 (五句)・愚仏 (二句)・黄雨 (二句)

俳諧楽屋物語 行々子 二六

秋声会観月の筵 松田竹嶼 二六〜二八

*紅葉 (二句) *竹嶼 (二句) *黄雨 (四句)

*松宇 (三句) *酔月 (二句) *茶楽 (二句)

*烏黒 (二句) *無黄 (四句) *竹冷 (二句)

*不曲 (二句) *四丁 (二句) *花底 (二句)

俳諧空談 城北隠士 二九〜三一

青梅土産 茶毘庵素竹 三一〜三六

秋声会の句を読み 神田居又六 三六〜三八

俳信 大谷素文 三八〜三九

枕詞俳句披露 (*選句)

雲操居松宇選 四〇

稲花庵黄雨選 四〇〜四一

六彩居無黄選 四一〜四三

募集画 秀逸 当選 銀河 (*画) 香魚郎 四一

募集俳句 題 雁 (*選句)

板倉酔月選 四三〜五〇

募集画 当選 西瓜燈籠 (*画) 四八

俳声会開会に就て (無署名) 五〇

葉書投句 題 秋季混題 (*選句)

松田竹嶼選 五一〜五三

芭蕉画像 高谷筆 素州模写 (*画) 五二

芭蕉木造全身及び側面頭中の頂き籟齋君模写 (*画) 五三

月刊雑誌こほれ梅俳句募集 辻来雫 五三

作句起因録 可野金月・帛易・成島杜有・有泉泣月・小川幽峰・ 五四〜五七

櫻井月華 芭蕉木像正面 籟齋君模写 (*画) 五五

杉風筆芭蕉画像全部及び落款印陰美大 (*画) 五六

芭蕉画像 杉風筆 小林鷲里君寄贈 (*画) 五七

葉書投書 (*投書八件) 五八〜六一

募集画 当選 虫聞 (*画) 五九

俳況 (*彙報欄) 金井生 五九

清閑居席上吟 六一

俳声会小集

六二～六三

吐虹会第十四回（竹冷先生選）

六三

白毫会第十一回（松宇先生選・竹冷先生選）

六三

案山子吟社句集（四丁先生選）

六三～六四

索綯吟社第九回（竹嶼選）

六四

藜会第一回（四丁先生選）

六四

若葉会（互選）

六四

千葉あなめ会（愚仏先生選）

六四

新花会第七回

六四～六五

豊声社

六五

観楓俳筵

六五

菊見吟社（竹嶼選）

六五

丹後栗の穂会

六六

顧蘇吟社互選集

六六

天津俳楽会

六六

東水居席上吟

六六

東水居即興

六六

編輯室より

竹嶼 六七～六八

俳声会々則

俳声会

後の一（*広告頁）

新刊寄贈書目

後の二（*広告頁）

第二卷第九号募集俳句 題 霜又ハ雪 万歳 陸軍始（一人四句

宛）・葉書投句 題 春夏秋冬随意（一枚四句宛記載の上何枚に

てもよし）・句相撲 題 声又は音（春季冬季）・第二卷第十号

俳句募集 題 猫恋（一人四句宛）・葉書投句 題 春季混題

（一枚四句宛）・句相撲題 春雨・短文募集（俳諧に関する古

跡） 後の三（*広告頁）

〈広告〉「女芸」女芸学会・「中学新聞」秀国社 後の四（*広告頁）

俳声余興句合投吟用箋 後の五（*広告頁）

〈広告〉「明星」桜州同盟会・「青年詞藻」青年詞藻社 後の六（*広告頁）

俳画募集 第二卷第九号分 題 馬鹿者（用紙薄美濃にて大きさ

本誌一頁大迄）・第二卷第十号分 題 目出たきもの（大きさ

前同断）金剛山房主人選（秀逸に当選したる分には賞典とし

て齋藤松洲先生画の扇地紙を贈呈す）（*頁数無）